

283
44



* 0051293001 *

0051293-001

283-44

弘前高等学校一覧

弘前高等学校

昭和2年4月至3年3月—昭和6年4月至7
年3月

昭和2-6

AHM

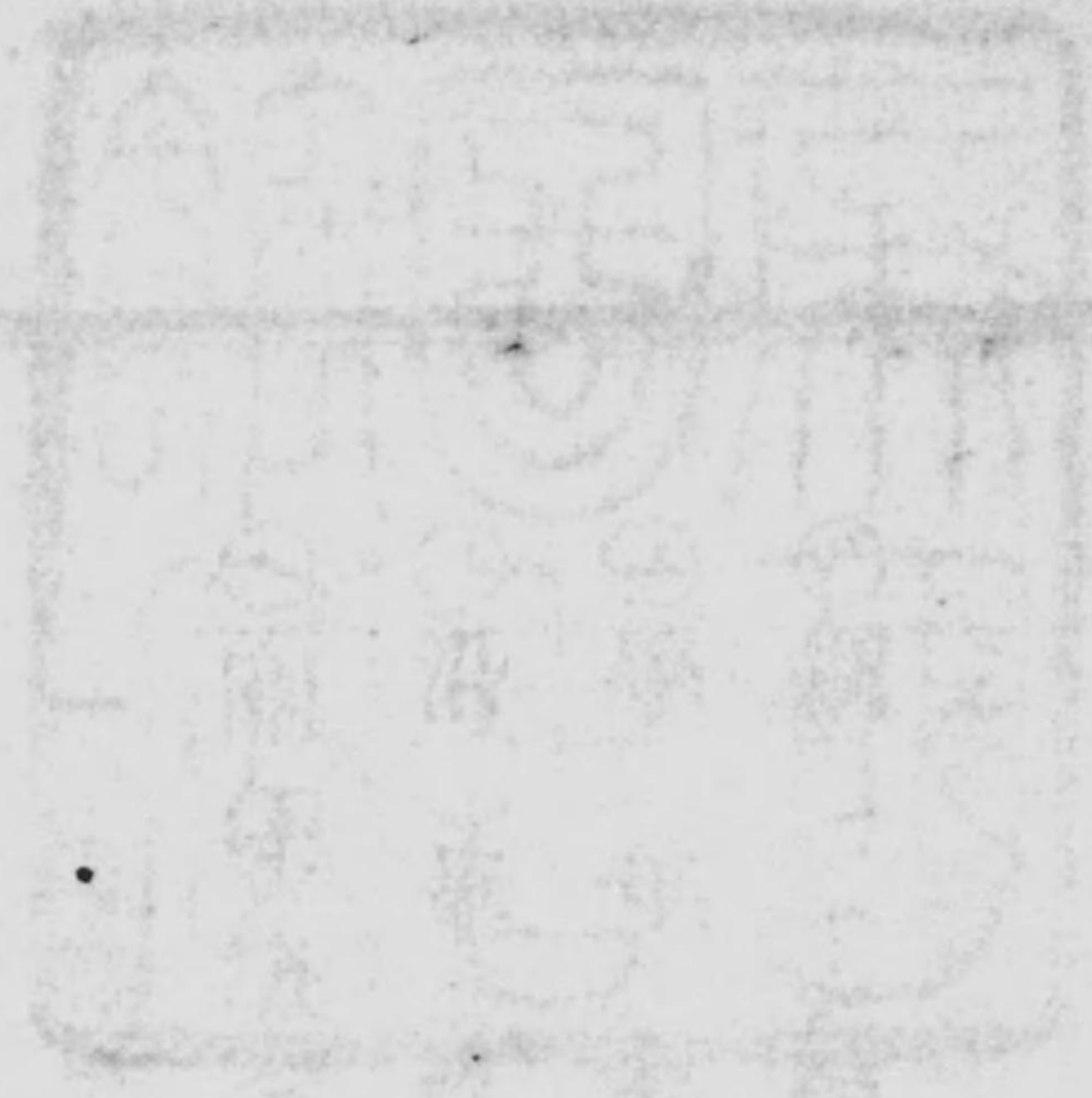
283

44

弘前高等學校一覽

(自昭和二年四月
至昭和三年三月)

288



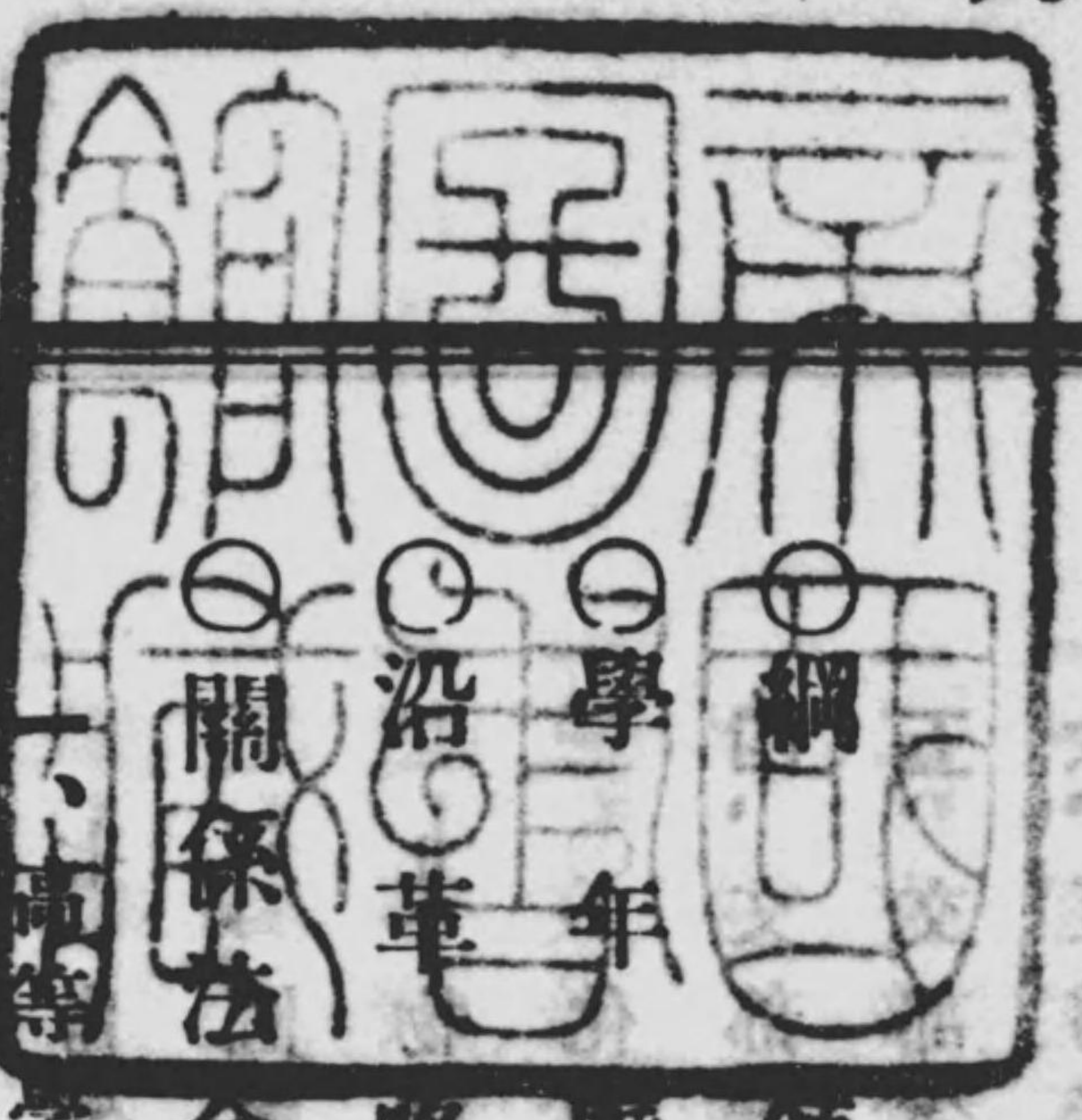
弘前高等學校一覽

(昭和三年三月)



Faint vertical text and lines, possibly a table of contents or index, including the number '三' (three) and '二' (two).

283-44



弘前高等學校一覽

(自昭和二年四月
至昭和三年三月)

校寄贈本

目次

綱	學年	沿革	關係法令	高等學校令	高等學校規程	高等學校教授要目	國語及漢文教授要目	歷史教授要目
.....
一	三	九	九	三	三	三	三	三



目次

三、哲學概說教授要目	二二
四、法制及經濟教授要目	二七
五、文科數學教授要目	三二
六、理科數學教授要目	三七
七、自然科學教授要目	四二
八、圖書教授要目	四七
九、物理教授要目	五二
一〇、化學教授要目	五七
四、文部省直轄諸學校官制(抄)	六一
五、文部省直轄諸學校職員定員令(抄)	六六
六、直轄諸學校長職務規定	七一
七、高等學校教員規程	七六
八、文部省直轄諸學校雇外國人ニ關スル規程	八一



九、高等學校高等科入學資格試驗規程	三三
一〇、專門學校入學者檢定規程	三六
一一、官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程	四一
一二、文部省直轄諸學校生徒ノ學校長ノ許可ナクシテ受ケタル他ノ直轄學校入學試驗無効ニ關スル規程	四六
一三、文部省直轄諸學校外國人特別入學規程(抄)	五一
一四、臺灣人朝鮮人文部省直轄諸學校入學ハ外國人特別入學規程準用	五六
一五、學生生徒兒童身體檢查規程(抄)	六一
一六、體育概論決定標準(抄)	六六
一七、行幸啓ノ節學生生徒敬禮方	七一
一八、高等學校高等科學力檢定規程	七六
○學	八一
第一章總則	八六

第二章 學科課程.....一三七

第三章 學年、學期、式日及休業日.....一四一

第四章 入學、在學、休學、退學及轉科轉類.....一四二

第五章 懲戒.....一四八

第六章 成績考查修了及卒業.....一四八

第七章 授業料.....一五〇

第八章 校章及服制.....一五一

第九章 寄宿寮規程.....一五四

○細則.....一五七

一、生徒心得細則.....一五七

二、成績考查細則.....一六一

三、轉科轉類細則.....一六六

四、授業料寄宿料及寄宿寮食費細則.....一六七

五、學級主任規程.....一六八

六、學科主任規程.....一六九

七、校務分掌規程.....一六九

八、會議規程.....一七七

九、教官服務細則.....一七七

○事務員服務細則.....一七九

一〇、文書處理及保存規程.....一八〇

一一、物品會計規程施行細則.....一八六

一二、圖書取扱規程.....一九三

一四、非常警備ニ關スル規程.....一九六

一五、當直規程.....一九八

○職員.....二〇三

○生徒及卒業生.....二二四

一、生徒氏名……………二四

二、生徒、入學志願者、入學者及卒業者學科別表……………三三

三、生徒本籍別表……………三三

四、入學志願者入學者學歷別調……………三六

五、生徒及入學者並卒業者年齡調……………三九

六、生徒卒業後狀況……………四〇

七、卒業者氏名……………四二

敷地及建物……………二六一

一、敷官地……………二六一

二、建物……………二六一

附錄……………二六五

弘前高等學校校友會規則……………二六五

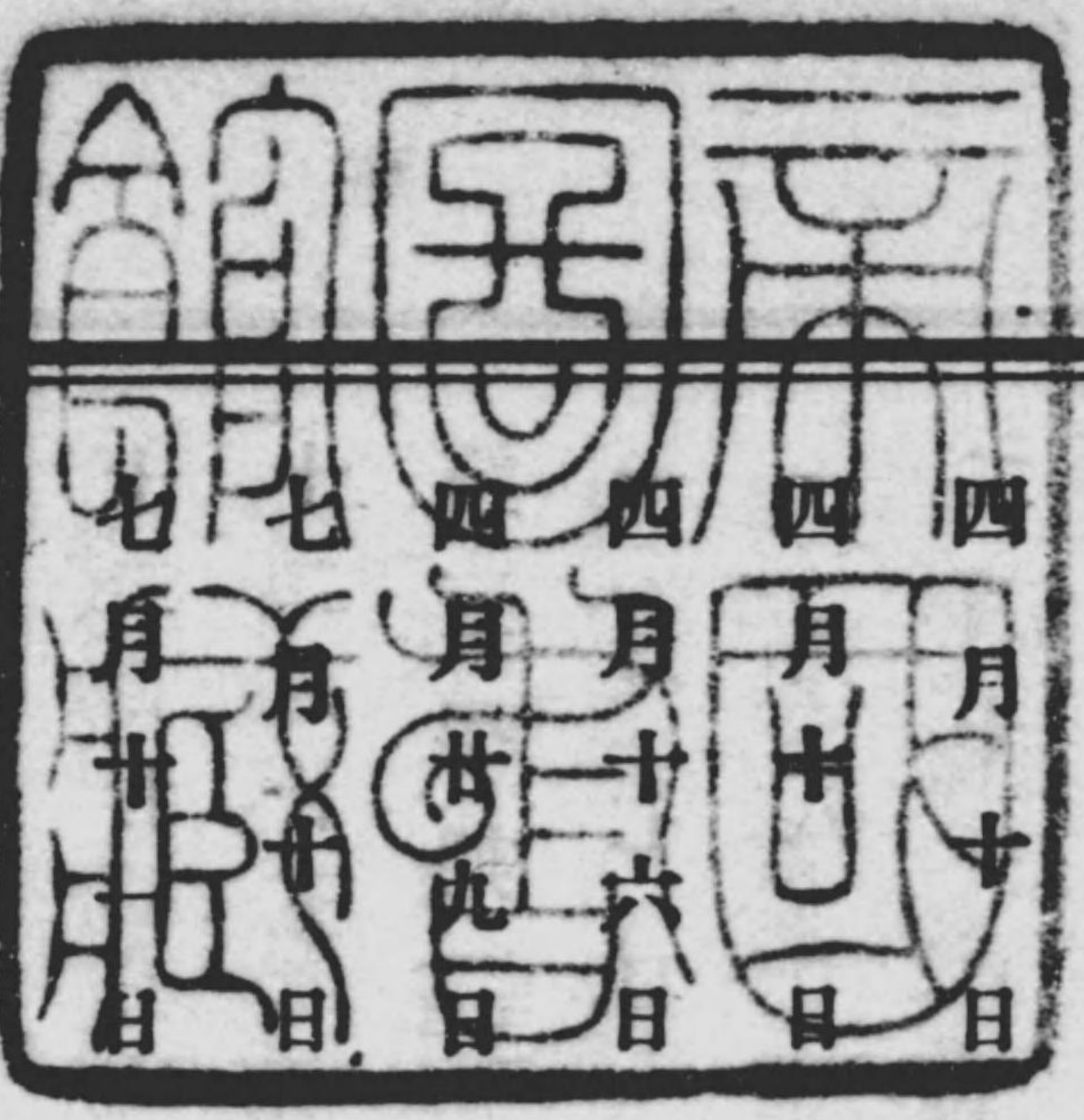
○綱領

- 一、教育勅語ノ精神ヲ奉戴シ以テ忠孝ノ大義ヲ發揮セムコトヲ期スベシ
- 一、廉耻ヲ重ジ禮節ヲ尙ヒ堅實重厚ノ風ヲ養フベシ
- 一、身體ノ健全ヲ圖リ智德ノ涵養ヲ努ムベシ

一、生徒の生活
 二、生徒の進歩
 三、生徒の健康
 四、生徒の徳行
 五、生徒の勤行
 六、生徒の進取
 七、生徒の責任
 八、生徒の誠實
 九、生徒の勇敢
 十、生徒の忍耐
 十一、生徒の謙遜
 十二、生徒の禮儀
 十三、生徒の清潔
 十四、生徒の整潔
 十五、生徒の秩序
 十六、生徒の規律
 十七、生徒の責任
 十八、生徒の誠實
 十九、生徒の勇敢
 二十、生徒の忍耐

○學 年 曆

第一學期 (自四月一日起至八月三十一日)



四月十日 (日)
 四月十六日 (月)
 四月廿九日 (金)
 七月十日 (日)
 七月廿日 (月)
 八月卅一日 (水)

第二學期 (自九月一日起至十二月三十一日)

九月一日 (木)
 秋分日 (秋季皇靈祭)

春季休業終

第一學期授業始

休業

天長節

第一學期授業終

夏季休業始

夏季休業終

第二學期授業始

休業

十月十七日	(神嘗祭)	休業
十一月三日	(明治節)	休業
十一月廿三日	(新嘗祭)	休業
十二月二十日	(月)	第二學期授業終
十二月廿一日	(火)	冬季休業始
十二月廿五日	(大正天皇祭)	休業
第三學期 (自一月一日 至三月卅一日)		
一月七日	(金)	冬季休業終
一月八日	(土)	第三學期授業始
二月十一日	(紀元節)	休業
三月十五日	(火)	第三學期授業終
三月十六日	(水)	春季休業始

○沿革略

大正八年

政府ニ於テ高等教育機關擴張ノ計畫アルヤ青森縣ハ創設費三十萬圓及敷地二萬坪ヲ寄附シ以テ當地ニ高等學校ヲ設置セラレンコトヲ請願ス政府之ヲ納シ茲ニ本校ノ設立ヲ見ルニ至レリ其ノ設置以來ノ沿革大要左ノ如シ

大正九年

十月廿九日公立中學校長兼公立中學校教諭秋田實鹿兒島縣立第一鹿兒島中學校長兼教諭在職中本校創立委員ヲ囑託セラル ○十一月廿六日勅令第五百五十一號ヲ以テ本校ヲ創設シ同年十二月一日ヨリ施行ノ旨布告セラル ○十一月廿六日勅令第五百五十二號ヲ以テ本校職員ノ定員ヲ校長一人教授九人書記四人トシテ同年十二月一日ヨリ施行ノ旨布告セラル ○十二月一日文部省告示第四百三十七號ヲ以テ本校事務所ヲ文部省内ニ設置ノ旨告示セラル ○十二月七日秋田實本校長ニ任セラレ同日本校創立委員囑託

ヲ解カル

大正十年

一月十五日事務所ヲ弘前市公會堂内ノ假校舍ニ移ス ○三月三十日入學者選抜試験合格者文科百二十人理科八十人ノ氏名ヲ發表ス ○三月三十日勅令第五十號ヲ以テ本校職員定員ヲ改メ教授十六人トナシ同年四月一日ヨリ施行ノ旨布告セララル ○三月三十日本校學則ヲ制定ス ○四月十一日生徒入學式ヲ舉行ス ○四月十六日開校式ヲ舉行ス當日文部大臣代理専門學務局長松浦鎮次郎臨場ス ○五月廿日物品會計規程施行細則ヲ制定ス ○八月廿八日本校本館ノ新築成リ弘前市富田町新築校舍ニ移轉ス ○十月六日文部省告示第四百六十四號ヲ以テ本校ノ事務所ヲ弘前市富田町ヘ移轉ノ旨告示セララル ○十二月九日文部省發建二百七十二號ヲ以テ教室及事務室外三廉新營工事並ニ物置外三廉新營工事竣工ニ付本校ヘ引渡サル

大正十一年

三月二日本校學則ヲ改正ス ○四月四日入學者選抜試験合格者文科百十三人理科七十

一人ノ氏名ヲ發表ス ○四月十日日本校寄宿寮ヲ開ク ○四月十一日生徒入學式ヲ舉行ス ○四月十五日勅令第二百四號ヲ以テ本校職員定員ヲ改メ教授廿四人助教二人書記五人トシ即日施行ノ旨布告セララル ○六月廿七日文部省弘高會十二號ヲ以テ本校官舎用地購入ノ件許可セララル ○九月十六日文部省發建二百三十九號ヲ以テ寄宿舎其ノ他新營工事竣工ニ付本校ニ引渡サル ○十月十日文部省發建二百五十七號ヲ以テ化學教室外六廉新營工事竣工ニ付本校ニ引渡サル ○十月三十日學制頒布五十週年式ヲ舉行ス ○十一月十三日文部省發建二百八十五號ヲ以テ圖書閱覽室外二廉新營工事竣工ニ付本校ヘ引渡サル

大正十一年

一月廿七日文部省青會八號ヲ以テ本校用地二萬百七十四坪ヲ引渡サル ○二月八日文部省訓令第二號ヲ以テ高等學校高等科文科數學哲學概說教授要目ヲ定メララル ○三月十二日教育ニ關スル勅語謄本ヲ下附セララル ○四月五日入學者選抜試験合格者文科百七人理科七十二人ノ氏名ヲ發表ス ○四月九日勅令第六十一號ヲ以テ本校職員定員ヲ改メ

教授三十人助教授五人書記六人トシ即日施行ノ旨布告セララル ○十二月二十日
天皇皇后兩陛下御眞影 皇太子殿下御影ヲ拜戴ス

大正十三年

一月十八日落成式ヲ舉行ス當日文部大臣代理督學官山内雄太郎臨場ス ○一月二十六日 皇太子殿下御結婚拜賀式ヲ舉行ス ○三月十三日第一回卒業生文科九十四名理科四十二名計百三十六名ニ卒業證書ヲ授與ス ○三月二十九日入學者選抜試験合格者文科百九名理科七十一名ノ氏名ヲ發表ス ○八月十一日文部省發建百二十五號ヲ以テ講堂外八廉工事竣功ニ付本校ヘ引渡サル

大正十四年

二月十八日本校學則ヲ改正ス ○三月十五日第二回卒業生文科百六名理科七十八名合計百八十四名ニ卒業證書ヲ授與ス ○三月二十九日入學者選抜試験合格者文科百十六名理科七十一名ノ氏名ヲ發表ス ○三月三十一日公立中學校長黒金泰信本校長ニ任セラレ同日學校長秋田實依願本官ヲ免セラル ○四月一日勅令第八十一號ヲ以テ本校職

員定員ヲ改メ助教授四名トシ即日施行ノ旨布告セララル ○六月三十日備外國人教師官舍二棟竣功ニ付引繼ヲ了ス ○七月六日岡田文部大臣來校視察 ○十月三十日文部省專門學務局長粟屋謙來校視察 ○十一月廿五日文部省令第四十二號ヲ以テ官立高等學校高等科入學者選抜試驗規程中改正サル

大正十五年

一月十八日體操教練檢閲トシテ第八師團長菱刈隆同司令部附少將廣瀬季彥來校 ○三月四日弘高專十一號ヲ以テ本校學則改正ノ件許可 ○三月十五日第三回卒業生文科九十名理科五十五名計百四十五名ニ卒業證書ヲ授與ス ○三月三十一日寄宿舍飲料炊事用鑿泉工事竣功ニ付引繼ヲ了ス ○四月八日入學者選抜試驗合格者文科百十四名理科七十七名ノ氏名ヲ發表ス ○六月十一日特命檢閱使梨本大將宮殿下ノ軍事教練御閱兵ヲ弘前舊城趾ニ受ク ○六月三十日外國人教師官舍敷地買收登記ヲ了ス ○八月十七日弘高會百十九號ヲ以テ校友會寄附ニ依ル弓道場受領ノ件認可 ○蒸汽暖房裝置工事竣功ニ付引繼ヲ了ス ○十二月廿五日 天皇陛下本日午前一時二十五分葉山御用邸ニ崩

御在ラセラレシニ付遙拜式ヲ舉行ス

昭和二年

一月八日 大正天皇陛下奉悼式舉行 ○一月廿八日弘高專一號ヲ以テ本校學則改正ノ件許可 ○二月七日 大正天皇御大喪儀ニ付遙拜式ヲ舉行ス ○三月十五日第四回卒業生文科百十三名理科六十六名計百七十九名ニ卒業證書ヲ授與ス

○關係法令

一、高等學校令

大正七年十二月六日
勅令第三百八十九號

第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニカムヘキモノトス

第二條 高等學校ハ官立、公立、又ハ私立トス

第三條 高等學校ヲ設立スルコトヲ得ル公共團體ハ北海道及縣トス

第四條 私立高等學校ハ財團法人タルコトヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經營ノミヲ目的トスル財團法人ガ其事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 前條ノ財團法人ハ高等學校ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ高等學校ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スル事ヲ要ス但シ其ノ基本財産ノ額ハ五拾萬圓ヲ下ルコトヲ得ス基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ

第六條 公立及私立ノ高等學校ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス

高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得

第八條 高等學校ノ高等科ヲ分チテ文科及理科トス

第九條 高等學校ニハ高等科ヲ卒リタル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得其ノ修業年

限ハ一年トス

專攻科ヲ卒リタル者ハ得業士ト稱スルコトヲ得

專攻科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 高等學校ニハ特別ノ必要アル場合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得但シ第七條第

二項ノ高等學校ニ付テハ此ノ限ニアラス

高等學校豫科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十一條 高等學校尋常科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校豫科ヲ修了シタル者、

尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリ

ト認メラレタル者トス

第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ終了シタル者

中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力

アリト認メラレタル者トス

第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ第

七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以上トス

第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スベシ

一學級ノ生徒定數ハ四十人以内トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異

ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タ

ルコトヲ要ス

但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學、退學及懲戒授業料入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十八條 公立及私立ノ高等學校ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第十九條 文部大臣ハ公立及私立ノ高等學校ニ對シ報告ヲ徵シ檢閲ヲ行ヒ其他監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外高等學校ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ高等學校タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十七年勅令第七十五號高等學校令高等中學校令ハ之ヲ廢止ス

舊令ニ依ル高等學校ハ之ヲ本令ニ依ル高等學校トス

前項ノ高等學校ニハ當分ノ内第十三條ノ規定ヲ適用セス

高等學校大學豫科ハ大正十年八月三十一日マテ之ヲ存置ス

二、高等學校規程

大正八年三月廿九日 文部省令第八號

第一章 學科課程及教科書

第一節 尋常科

第一條 尋常科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、外國語、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、圖畫、唱歌、體操トス

外國語ハ英語獨語又ハ佛語トス

第二條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年			
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	一	一	一	一
國語及漢文	八	八	六	六

外國語	六	七	七
歷史、地理	三	三	三
數學	四	四	四
博物學	二	二	二
物理及化學		二	四
圖書	一	一	一
唱歌	一	一	
體操	三	三	三
計	二九	三〇	三一

體操ハ前表ノ教授時數ヲ三時以內増加シテ之ヲ課スルコトヲ得

第三條 中學校ノ學科目ノ程度ニ關スル中學校令施行規則ノ規定ハ尋常科ニ關シ之ヲ準用ス

第二節 高等科

第四條 高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概説、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、礦物及地質、心理、法制及經濟、圖書、體操トス

外國語ハ英語獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第五條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ獎勵スルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會、家族ニ對スル責務並人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國民道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且ツ自由ニ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ智徳ヲ啓發シ文學上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世、近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ上古文ノ一般ニ

及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

理科ニ在リテハ近世及近古ノ國文並ニ普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

第七條 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且ツ之ニ依リテ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ兼テ智徳ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授クヘシ

第八條 歴史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰、文化ノ發達ヲ理會セシメ特ニ我國運發展ノ由來國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

歴史ハ日本歴史、東洋歴史及西洋歴史ヲ授クヘシ

第九條 地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現狀ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ我國及諸外國ノ政治經濟等ニ關スル地理上ノ知識ヲ授クヘシ

第十條 哲學概説ハ思想界ニ關スル知識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セシムルヲ以テ要

旨トス

哲學概説ハ東洋及西洋ノ哲學、宗教等ニ就キテ其ノ大要ヲ授クヘシ

第十一條 心理及論理ハ心意ニ關スル知識ヲ得シメ思考ヲ鍛練セシムルヲ以テ要旨トス

心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授クヘシ

第十二條 數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ文科ニ在リテハ數學諸論ノ大要ヲ授ケ理科ニ在リテハ代數、立體幾何、三角法初等解折幾何、初等微分積分及初等力學ヲ授クヘシ

第十三條 自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理解セシムルヲ以テ要旨トス

自然科學ハ生物、地質、物理、化學等ニ關スル主要ナル事項ヲ授クヘシ

第十四條 物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理解セシメ之カ應

用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

物理ハ力學、物性、音響、熱光、磁氣、電氣ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

化學ハ無機化學及有機化學ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條 植物及動物、礦物及地質ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ之カ應用ヲ示シ兼テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

植物及動物ハ生物ノ形態生理、分類、進化ニ關スル知識ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

礦物及地質ハ礦物ノ產狀、性質、用途、地球ノ構成及其變遷ニ關スル知識ヲ授ケ又便宜主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル知識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常生活ニ適切ナル法制上及經濟財政上ノ事項ヲ授クヘシ

第十七條 圖書ハ形體ヲ正確且自由ニ畫クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ練リ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

圖書ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條 體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ效練及體操ヲ授クヘシ又劍道及柔道ヲ加フルコトヲ得

第十九條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	六	五	五
第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)
歷史	二	五	四

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
地理	二		
哲學概說			三
心理及論理		二	二
法制及經濟		二	二
數學	三		
自然科學	二	三	
體操	三	三	三
計	二九 (三三)	二九 (三三)	二八 (三二)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス
但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ
各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一	一〇	一〇
第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	三一 (三四)	三一 (三四)	三〇 (三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得
第二十條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	四	二	
第一外國語	八	六	六
第二外國語	(四)	(四)	(四)
數學	四	四	四

物	理						講議 三 五
化	學						講議 二 三 五
植物及動物			二				講議 二 三 四
礦物及地質			二				
心理					二		
法制及經濟			二				
圖	畫		二				二 二
體	操		二				三
計			二八 (三二)		二八 (三二)		二八 (三二)

第三學年數學〔一〕及圖畫〔二〕ト第三學年ノ植物及動物〔講議二實驗二〕トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシムルモノトス
第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス

但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語		一〇	九	九
第二外國語		(三)	(三)	(三)
計		三〇 (三三)	三一 (三四)	三一 (三四)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第三節 專攻科

第二十一條 專攻科ノ學科目ハ左ノ學科目中ヨリ便宜選擇シテ之ヲ定ムヘシ

國語、漢文、支那時文、外國語、史學、哲學、倫理學、社會學、法律學、政治學、經濟學、數學、物理學、化學、植物學、動物學、礦物學、地質學、天文學、氣象學、應用化

學、機械工學、實業ニ關スル科目等

第四節 教授上ノ注意

第二十二條 高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ趣旨ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民道德ノ充實ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授セムコトヲ要ス

各學科目ノ教授ハ其目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益セムコトヲ要ス

第五節 教科書

第二十三條 高等學校ノ教科書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル中學校教科書ヲ尋常科ノ教科書トシテ使用スル場合ニ於テハ認可ヲ要セス

第二章 學年、教授日數及式日

第二十四條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス但シ九月一日ヨリ翌年八月三十一日迄ト爲スコトヲ得

第二十五條 教授日數ハ尋常科ニ在リテハ每學年二百二十日以上高等科ニ在リテハ每學年二百日以上專攻科ニ在リテハ百九十日以上トス

但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス試験及修學旅行ニ充ツタル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十六條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 紀元節、天長節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編制

第二十八條 尋常科ニ於テ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得ル場合ニ關シテハ中學校ニ關スル規定ヲ準用ス

高等科ニ於テハ國語及漢文、外國語、數學ヲ教授スル場合ヲ除ク外文部大臣ノ認可ヲ受ケ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第二十九條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ教員並專任教員及兼任教員ノ割合ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第三十條 公立又ハ私立ノ高等學校高等科ニ於テ劍道又ハ柔道ノ教授ヲ擔任スル教員ハ前條ノ定數以外トス

第四章 設 備

第三十一條 高等學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ

第三十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條 校舍ニハ教室、事務室其ノ他必要ナル實驗室、圖書室、器械室、標本室等ヲ備フヘシ

校舍ハ教授上衛生上、管理上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第三十四條 校具ハ教授上必要ナル圖書、機械、器具、標本、模型等トス

第三十五條 高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表簿ヲ備フヘシ

一、學則、日課表及教科用圖書配當表

二、職員ノ名簿及履歷書並擔任學科目及時間表

三、生徒學籍簿出席簿身體檢查ニ關スル表簿及入營延期又ハ徵兵猶豫ニ關スル書類

四、試驗ノ問題、答案及成績表

五、資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、機械、器具標本模型ノ目錄
生徒ノ學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學退學ノ年月日及其ノ學年卒業ノ年月日、入學試驗ノ有無轉學退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第五章 設 立 及 廢 止

第三十六條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ設立ニ付認可ヲ受ケムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一、名 稱

二、高等學校令第七條ノ事項

三、學 則

四、各科ノ生徒定數

五、位置及校地

六、校舎ノ圖面及建設ノ設計

七、開校ノ期日

八、經費及維持ノ方法

前項第五號ニ關シテハ校地ノ地質及面積並附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲料水ノ定性分拆表ヲ添付スヘシ

第一項各號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 公立又ハ私立ノ高等學校ノ廢止ニ付キ認可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第三十八條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第三十九條 當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ尋常科ニ入學セシムヘシ

第四十條 他ノ高等學校又ハ中學校ノ豫科ヲ修了シタル者及高等學校ニ於テ國語、算術、日本歴史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業程度ニ依リ行フ試験ニ合格シタル者ハ尋常科ノ入學ニ關シ尋常小學校ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

當該高等學校ノ豫科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數尋常科ニ入學セシムヘキ人員ニ超越スルトキハ尋常小學校卒業ノ程度ニ依ル試験ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ

第四十一條 尋常科第二學年以上ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルハシ
前項入學者學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リテ之ヲ檢定スヘシ

第四十二條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チ之ヲ高等科

ニ入學セシムヘシ

第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

一、他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者

二、高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者

三、專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

四、文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者

五、文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

前項ノ資格試験ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十四條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數高等科各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル試験ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ但シ無試験檢定ヲ行ヒテ入學者ヲ定ムルコトヲ得

第四十五條 高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ體格檢査ヲ行ヒ之ニ合格シタル者

ニ限リ入學セシムヘシ但シ當該學校ニ於テ豫科ヨリ尋常科ニ進入シ又ハ尋常科ヨリ高等ニ進入スル者ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタルモノト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第四十七條 高等學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ一年以内ニ於テ高等學校ニ入學ヲ志願シタル時ハ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ退學シタル高等學校ニ再入學ヲ志願シタル者ニ限リ試験ニ依ラサルコトヲ得

第四十八條 高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アル時ハ關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

第四十九條 高等學校尋常科ト中學校トノ相當學年相互ノ間ニ於テハ前條ノ規定ニ準シ轉學ヲ許可スルコトヲ得

第五十條 高等學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當事由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得

試験ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條 學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ專攻科ヲ卒リタル者ニハ得業證書ヲ尋常科ヲ修了シタル者ニハ修了證書ヲ授與スヘシ

第五十三條 學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ

第五十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

- 一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三、引續一年以上缺席シタル者

四、正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五、出席常ナラサル者

第五十五條 生徒退學セムトスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章 豫科

第五十七條 高等學校ノ豫科ニ關シテハ中學校ノ豫科ニ關スル中學校令施行規則ノ規定ヲ準用ス

第八章 則

第五十八條 高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一、學年、學期及休日ニ關スル事項

二、學科課程、教授時數ニ關スル事項

三、課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項

第四、生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項
第五、授業料、入學料等ニ關スル事項

第五十九條 私立ノ高等學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘ

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

三、高等學校教授要目

第一 國語及漢文教授要目 (大正十三年) 文部會訓令第二號

國語

文法

國語教授ヲ左ノ四部ニ分ツ

講讀 文法 作文 文學史

講

講讀ニ於テハ解釋鑑賞批評ノ三態度ヲ取ルヘシ

解釋 文釋

語句文章ノ意義思想ヲ正確ニ理解セシメ感情氣分ノ把握ニ注意セシムヘシ

國民性及國民精神ヲ理解セシムルト共ニ人性ノ眞ヲ會得セシムヘシ

文鑑 對賞

文章創作ノ心理ニ透入スルコトニ注意セシメ文章樣式ノ時代的特色ト共ニ作家

ノ個人的特徴ヲモ正確ニ理解セシメテ各作家各文章ノ有スル特殊ナル美ヲ識別

玩味スル美感ノ養成ニ力メシムヘシ

批評 賦賞評

批評ハ美學的修辭學的文法的ナルヲ主トスヘシト雖兼テ諸般ノ思想知識感情

中古ニ就キテ穩健ナル指導ヲ爲スヘシ

第一學年ニ於テハ主トシテ近古文(例ヘハ保元物語、平治物語、平家物語、太平記、增

鏡、徒然草、新古今和歌集、山家集、金槐集、謠曲、狂言等)、第二學年ニ於テハ主トシテ
 中古文(例ヘハ源氏物語、枕草紙、大鏡、落窪物語、古今和歌集等)、第三學年ニ於テハ
 主トシテ上古文(例ヘハ古事記、祝詞、宣命、紀記ノ歌、萬葉集等)ヲ課シ近世文(例ヘ
 ハ奥ノ細道、鶉衣、雨月物語、春雨物語、西鶴、馬琴等ノ文、俳句、淨瑠璃、擬古文)等ハ
 難易ニ從ヒテ適當ナル學年ニ之ヲ課ス又隨時現代文(代表作家ノ文)ヲシテ作文力
 ノ養成ニ資スルコトアルヘシ
 教科書ハ全本ヲ用フルヲ可ナリトスレトモ便宜抄本又ハ編纂物ヲ用フルヲ妨ケス
 文法

既得ノ文法ノ知識ヲ整理シ國語學一般及各時代ノ語法ノ特徴ヲ授ケ現代文語法並
 ニ口語法ノ應用ニ習熟セシムヘシ
 作文

口語體並ニ文語體ニ習熟セシムヘシ
 少クトモ一箇月一回之ヲ課シ適當ナル時期ニ於テ作文ニ必要ナル修辭學上ノ知識

ヲ授クヘシ
 語句ノ推敲構想ノ整齊修辭ノ妥當ニ注意セシメ又内容ニ應シテ文ノ姿致ヲ變化セ
 シムル工夫ヲ積マシムヘシ

添削ヨリモ批評ヲ重シ常ニ個性ノ發揮ヲ誘導シ好ンテ文章ヲ綴ルノ習慣ヲ得シ
 ムヘシ

文學史

文學書ノ解題文學者ノ傳記文例等ハ之ヲ適當ナル參考書ニ依リテ授ケ講義ハ文學
 ノ史的展開及文學ニ現レタル國民思想ノ主流ヲ說述シ作品及作家ノ評論ヲ爲スヘ
 シ

時間數及其ノ配當ハ左ノ如シ

第一學年	每週三時間	講讀二時間	文法一時間
第二學年	每週三時間	講讀二時間	文學史一時間
第三學年	每週三時間	講讀二時間	文學史一時間

作文ノ時間ハ適宜ニ之ヲ定ムヘシ

理科

國語教授ヲ左ノ二部ニ分ツ

一 講讀

二 作文

教科書ハ文科ニ準シ講讀ト併セテ國民思想ノ發達文學ノ史的展開ヲ說述スヘシ
解釋ハ略文科ニ準スト雖語句ノ解釋ニ偏セス全文ノ理解ヲ重ンスヘシ
鑑賞批評ノ指導ハ適宜ニ之ヲ爲スヘシ

作文

文科ニ準ス但シ適當ナル時期ニ於テ作文ニ必要ナル文法ノ知識ヲ授クヘシ
時間數ハ左ノ如シ

第一學年 每週二時間

第二學年 每週二時間

作文ノ時間ハ適宜ニ之ヲ定ムヘシ

漢文

教授方針

高等學校規程第六條ノ要旨ニ基ツキ特ニ道義的觀念文學的趣味ヲ涵養スルニ足ルヘキ教材ニ依リ生徒ヲシテ讀書作文力ヲ養ヒ兼ネテ東洋道德思想ノ淵源ヲ知ラシメンコトヲカムヘシ
講讀ニ於テハ語句ノ意義ヲ解釋シ文章ノ要旨ヲ明カニシ且其ノ形式ノ時代的特色ヲ説明シ場合ニ依リテハ作家ノ個人的特徴ヲモ示シ尙思想ニ關シテ適切ナル批判ヲ下スヘシ

教授時數

文科

第一學年 每週三時間

第二學年 每週二時間

第三學年 每週二時間

理科 每週三時間

第一學年 每週二時間

教科書材

文科

第一學年

四書 史記 漢書 資治通鑑等ノ類

支那歷代名家ノ詩文

第二學年

四書 春秋左氏傳 戰國策 荀子 韓非子等ノ類

支那歷代名家ノ詩文

第三學年

尙書 禮記 莊子 墨子 孫子等ノ類

哲學思想ニ關スル漢唐以後ノ主要ナル著作

支那歷代名家ノ詩文

理科

第一學年

文科第一學年ニ準ス

第二學年(配當時數アルトキ)

文科第二學年ニ準ス

土備考

一、前記教材ノ選擇排列ニ就キテハ多少ノ斟酌ヲ爲スコトヲ妨ケス

二、時文小説等ノ類ハ隨時之ヲ附課スルコトヲ得

三、文學史及文法ニ關スル事項ハ教材ニ就キテ隨時之ヲ教授スルモノトス

四、教材ニハ句讀ヲ施シ返點ヲ附セサルヲ原則トス

國語漢文ノ配當時數ハ教授上ノ都合ニ依リテ多少ノ變更ヲ加フルコトヲ得

二 歷史教授要目

(大正十四年 文部省訓令第二號)

日本史

第一學年 (約九十時間)

緒論

上 世

- 文一 日本民族ト其ノ國家ノ成立
- 文二 皇室中心ノ氏族制度
- 文三 支那文化ノ傳來 歸化人
- 文四 佛教ノ傳來 敬神崇佛ト神佛混合
- 文五 國家思想ノ發達ト大化ノ改新 國史律令ノ撰修
- 文六 奈良朝ノ政治及佛教 文學及美術工藝
- 文七 平安朝初期ノ政治外交

八 攝關政治 院政

九 平安朝ノ佛教 假名國文ノ發達 美術工藝 淨土信仰ト庶民藝術

一〇 莊園ト武士 源平二氏ノ興亡

中 世 鎌倉幕府ノ成立 守護地頭 武士道 貞永式目

一二 朝廷ト幕府トノ關係

一三 元ノ來寇ト我逆襲計畫 國民自覺 幕府財政ノ破綻

一四 佛教ノ新宗派

一五 鎌倉時代ノ文學及美術工藝

一六 建武中興ト公武ノ抗爭

一七 室町幕府ノ組織 政治上社會上ノ缺陷

一八 支那及朝鮮トノ交通

一九 室町時代ノ文學及美術工藝 能樂 茶道

- 二〇 諸大名ノ分裂ト社會組織ノ解體
- 二一 西洋諸國人ノ渡來 天主教ノ弘通 西洋文化ノ傳播
- 二二 都市ノ發達 國民ノ對外活動
- 二三 皇室ト國民トノ接近
- 二四 織田豊臣二氏ノ統一事業 美術工藝
- 近 世
- 二五 江戸幕府ノ成立 社會組織ノ整頓
- 二六 鎖國ノ由來ト其ノ影響
- 二七 學問ノ勃興ト其ノ傾向
- 二八 元祿時代ノ經濟及世相 町人文學 美術工藝
- 二九 商工業ノ發達
- 三〇 正徳ノ政治 享保ノ改革
- 三一 寛政ノ改革 諸藩ノ治 天保ノ改革

- 三二 國史ノ編纂 國學ノ獨立
- 三三 尊皇思想ノ勃興
- 三四 洋學ノ研究
- 三五 文化、文政時代ノ文學、美術工藝
- 三六 歌米ノ極東經略ト我對策
- 三七 政局ノ變轉ト國論ノ沸騰 江戸幕府ノ瓦解
- 現 代
- 三八 明治維新 國是ノ確立 政治的社會的變革
- 三九 立憲思想ノ發達 立憲政體ノ確立
- 四〇 條約改正 法典制定 國權ノ恢復
- 四一 東洋ノ平和ト我國策ノ實現 日清戰役 日露戰役
- 四二 日英同盟 日韓併合
- 四三 實業ノ發達

- 四四 政黨政治ノ進歩
- 四五 明治、大正時代ノ思想
- 四六 明治、大正時代ノ科學、文學及美術
- 四七 世界大戰後ノ帝國ノ地位
- 備 考
- 一 教授ノ内容ハ古代ヨリ現代ニ進ムニ從ヒ漸次之ヲ詳細ニスヘク殊ニ現代ハ中學校ニ於テ修得ノ機ナカリシ生徒多數ヲ占ムヘキヲ以テ最モ詳説ニ力メシコトヲ要ス然レトモ古代ヨリ現代ニ至ルマテ史的發展ノ連續的ナルコトヲ史實ニ依リテ説明スヘシ
- 二 本要旨ハ多少其ノ順序ヲ變更シ又ハ分合ヲ行フコトヲ妨ケス
- 三 緒論ニ於テハ我國ノ地理的位置、時代別、資料等ニ就キテ説明スヘシ但シ教員ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得
- 四 東洋史、西洋史ト交渉アル事蹟ハ日本史ノ立場ヨリ説明スルハ勿論ナレト

- 一 毛成ルヘク重複ヲ避クヘシ
- 二 生徒ニハ成ルヘク豫メ講義内容ノ摘要ヲ授クヘシ但シ教科書ヲ用フル場合ハ此ノ限ニ在ラス

東洋史

第二學年 (約九十時間)

緒論

上古

- 一 唐虞夏殷及西周
- 二 春秋戰國時代
- 三 周末ノ學術
- 中古
- 四 秦ノ始皇帝ノ統一
- 五 西漢ノ初世、武帝ノ內治

六 西漢時代ノ外國經路ノ内訖

四一 南越トノ關係

四二 匈奴トノ關係

四三 朝鮮トノ關係

四四 西域トノ關係

七 西漢ノ衰微西漢東漢ノ興起

一八 東漢ノ塞外經路

一九 匈奴トノ關係

二〇 西域トノ關係 (略式十相關)

二一 佛敎ノ東漸

二二 漢代ノ學術

二五 東漢ノ末世 三國ノ鼎立内容ノ辭要ト對ヘハ川ノ録林書ヲ用クニ聯合

二六 西晉ノ興亡 五胡ノ日本史ノ立場ヨリ説明スルハ勿論ナレト

一三 晋ノ南渡 南方ノ開發

一四 南北朝ノ對立

一五 南北朝時代ノ宗敎學藝

一六 隋ノ統一 唐ノ初世

一七 唐ノ外國經路

一八 高句麗、新羅、百濟及日本トノ關係

一九 吐蕃、印度トノ關係

二〇 突厥、回鶻トノ關係

二一 中央亞細亞經路

二二 波斯、大食トノ關係

二八 武韋ノ内乱、玄宗ノ中興

二九 安史ノ乱

三〇 唐ノ衰微

- 二二 唐代ノ制度學藝宗教
- 近世 古史ノ關係
- 二五 五代、契丹ノ興起、渤海ノ興亡
- 二三 宋ノ統一 大政ノ關係
- 二四 宋遼ノ交涉 西夏ノ興起
- 二五 宋ノ神宗下改革、新舊兩黨ノ争
- 二六 女真ノ興起 遼ノ滅亡
- 二七 宋ノ南渡 宋金ノ交涉 日本ノ關係
- 二八 宋代ノ宗教學藝 南海ノ通商
- 二九 蒙古ノ興起 西征ノ關係
- 三〇 成吉思汗ノ西征 學藝ノ關係
- 三一 西夏及金ノ滅亡 蒙古ノ關係
- 三二 拔都及旭烈兀ノ西征 蒙古諸汗國ノ成立

- 三三 宋ノ滅亡 元ト高麗 日本及南海諸國トノ關係
- 三四 元ノ極盛 蒙古ノ關係
- 三五 東西ノ交通、西域人ノ支那内地移住
- 三六 元ノ衰微 中華因國ノ知意
- 三七 明ノ初世 明太祖ノ關係
- 三八 蒙古諸汗國ノ盛衰 帖木兒王朝ノ興亡
- 三九 明ノ中世 明ノ關係
- 四〇 北虜南倭 朝鮮ノ役 明ノ衰微
- 四一 元明時代ノ學藝 蒙古ノ關係
- 近世 世ノ關係 英國聯合軍ノ北京並華
- 四二 歐人ノ東漸 葡、西、蘭、英、諸國ノ東洋通商
- 四三 天主教徒ノ東亞布教 天主教ノ關係
- 四四 清ノ興起 清ト朝鮮トノ關係 明ノ滅亡

- 四五 清ノ聖祖 高宗ノ武功及文治
- 四六 清代ノ學藝 天主教徒ノ事業
- 四七 莫臥兒帝國 英人ノ印度征服
- 四八 阿片戰役 長髮賊ノ乱 英佛聯合軍ノ北京進撃
- 四九 露西亞ノ亞細亞侵略 清露ノ關係 英露ノ關係
- 五〇 佛蘭西ノ印度支那侵略 清佛戰役
- 現代 日清戰役 歐洲諸強國ノ清國壓迫 戊戌ノ變 義和團ノ乱
- 五一 日露戰役 日英同盟
- 五二 清ノ滅亡 中華民國ノ成立
- 五四 民國成立後ノ支那人ノ支那内亂
- 五五 日本ト民國トノ關係
- 五六 東亞ノ現狀 日本及南洋羣島ノ關係

六備

考

- 一 教授ノ内容ハ古代ヨリ現代ニ進ムニ從ヒ漸次之ヲ詳細ニスヘキモ古代ノ學說制度等ニシテ後世ニ深キ影響ヲ及ホシシモノハ特ニ詳説スルヲ要ス
- 二 本要目ハ多少其ノ順序ヲ變更シ又ハ分合ヲ行フコトヲ妨ケス
- 三 緒論ニ於テハ東洋史ノ定義及範圍、東洋史上ノ民族、東洋史ノ時代別等ノ如キ豫備知識ヲ授クヘシ但シ教員ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得
- 四 支那以外ノ諸邦國諸民族ノ沿革興亡ニシテ教授ヲ要スルモノハ成ルヘク關係アル適宜ノ場所ニ附説シテ(例ヘハ印度古代ノ事蹟ハ佛教ノ東漸ノ章ニ古朝鮮ノ事蹟ハ西漢ノ外國經略ノ章ニ附説スルカ如ク)連絡ヲ保ツニ注意スルコトヲ要ス
- 五 東西ノ交通彼此文化ノ影響ニ注意スルヲ要ス
- 六 外族カ支那ヲ支配セシ時代ニハ其ノ外族ノ對漢族政策ニ注意スルヲ要ス
- 七 日本史西洋史ト交渉アル事蹟ハ東洋史ノ立場ヨリ説明スルハ勿論ナレトモ

- 一九 神聖羅馬帝國ノ成立 俗權ト教權トノ衝突
 - 二〇 封建制度ノ成立 封建時代ノ社會及經濟狀態
 - 二一 十字軍 都市ノ興起 人智ノ開發
 - 二二 皇帝及法皇ノ勢力失墜
 - 二三 近代國家ノ成立
 - 二四 蒙古ノ西侵 土耳其ノ勃興
 - 二五 ヒューマニズムノ發生 文藝ノ復興
 - 二六 地理上ノ發見 葡西兩國ノ活躍 歐洲經濟狀態ノ變化
- 第三學年 (約百二十時間)
- 近古
 - 二七 獨逸及其ノ他諸國宗教改革 其ノ反動
 - 二八 西歐諸國ニ於ケル宗教及政治上ノ紛争 和蘭ノ獨立
 - 二九 三十年戰役及其ノ影響

- 三〇 專制主義ノ勃興 イングランドノ革命ト民權ノ發達
- 三一 佛蘭西ノ專制政治ト外國侵略 西班牙繼承戰役
- 三二 佛蘭西文化ノ隆盛及其ノ影響
- 三三 海上權ノ推移トマーカチリヂム
- 三四 露西亞ノ興隆 北方戰役 露西亞ノ東侵 波蘭ノ分割
- 三五 普露西ノ興起 其ノ軍國的政治 奧太利繼承戰役 七年戰役
- 三六 英佛ノ對抗ト植民地戰役
- 三七 英吉利ノ對植民地政策 北米合衆國ノ獨立
- 三八 啓蒙思想ノ興隆 新學說ノ流行 科學ノ進步
- 三九 佛蘭西大革命 革命政府ノ對外關係
- 四〇 ナポレオンノ偉業 解放戰役ウイーン會議
- 四一 神聖同盟 反動政治ノ全盛

- 四二 民族主義及自由主義、ロマンチズム
- 四三 希臘及ラテン、アメリカ諸國ノ獨立、モンロー主義
- 四四 産業革命、ブルジョアノ優勢、社會主義ノ發生
- 四五 七月革命、白耳義ノ獨立、英吉利憲法政治ノ改革
- 四六 二月革命、佛蘭西ノ第二共和政治、歐洲諸國ノ民族の動乱
- 四七 佛蘭西ノ第二帝政、クリミア戰役
- 四八 伊太利ノ民族の統一、法皇ト伊太利政府
- 四九 普埃ノ爭霸、獨佛戰役、獨逸ノ民族の統一
- 五〇 十九世紀ノ文化
- 五一 唯物的傾向、科學ノ大進歩、文藝ノ寫實の傾向、世界交通ノ擴大
- 五二 北米合衆國ノ内情、南北戰役戰役後ノ發展
- 統一後獨逸ノ内政

- 五三 文化争闘、獨逸社會民主黨、ビスマルクノ經濟政策
- 社會政策及植民政策
- 佛蘭西ノ復興
- 共産黨ノ乱、諸黨派ノ抗爭、第三共和政治ノ確立
- 植民政策、政務分離
- 露西亞ノ内情
- 農奴解放、虛無黨、革命運動、議會開設
- 英吉利ノ國情
- 自由貿易、愛蘭問題、帝國統合策
- 五六 北米合衆國ノ帝國主義
- 資本主義的飛躍、米西戰役、パナマ運河開鑿、米墨關係
- 五七 列強ノ世界政策
- イ 亞細亞ニ於ケル列國ノ經營

- 五九 獨佛戰役後ノ歐洲國際關係
- 五八 露佛戰役後ノ歐洲國際關係
- 五七 獨佛ノ大洋洲諸島獲得
- 五六 英吉利ノ大洋洲拓殖 北米合衆國ノ布哇併合及 フイリッピン獲得
- 五五 大平洋ニ於ケル列國ノ經營
- 五四 英吉利ノ埃及經營 南阿役戰 獨、佛、白等ノ經營
- 五三 阿弗利加ニ於ケル列國ノ經營
- 五二 現 代
- 六〇 世界大戰勃發前歐洲ノ形勢
- 五三 三國同盟ト三國協商 英獨ノ對抗 モロッコ問題
- 五二 伯林會議後ノバルカン 希土戰役 土耳其ノ革命
- 五二 露佛戰役後ノ歐洲國際關係
- 五二 獨佛戰役後ノ歐洲國際關係
- 五二 獨佛ノ大洋洲諸島獲得
- 五二 英吉利ノ大洋洲拓殖 北米合衆國ノ布哇併合及 フイリッピン獲得
- 五二 大平洋ニ於ケル列國ノ經營
- 五二 英吉利ノ埃及經營 南阿役戰 獨、佛、白等ノ經營
- 五二 阿弗利加ニ於ケル列國ノ經營

バルカン戰役 (一九一四年)

- 六一 世界大戰勃發 其ノ經過 (北米合衆國ノ參戰)
- 六二 露西亞ノ革命ト單獨講和 獨埃ノ革命ト休戰
- 六三 巴里講和會議 ヴェルサイユ條約 其ノ他ノ諸條約
- 六四 大戰後ノ世界ノ形勢
- 六五 歐洲形勢ノ激變 民族自決主義 諸新聞ノ興起 國際聯盟ノ勞農政治
- 六五 露西亞ト波蘭 英佛ノ對獨方針 上シレシヤ問題 華盛頓會議 希土戰役 近東處分ノ改定 獨逸賠償問題 英吉利憲法政治ノ變化 戰後諸國ノ國情
- 六五 最近ノ文化及風潮
- 六五 最近ニ於ケル科學ノ應用 交通通信機關ノ進歩及普及
- 六五 民主的傾向 勞働運動 婦人運動 平和主義 人類協調精神ト民族發展精神

備考

- 一 教授ノ内容ハ古代ヨリ現代ニ進ムニ從ヒ漸次之ヲ詳細ニスヘキモ古代ヨリ現代ニ至ルマテ史的發展ノ連續的ナルコトヲ史實ニ依リテ證明スヘシ
- 二 本要目ハ多少其ノ順序ヲ變更シ又ハ分合ヲ行フコトヲ妨ケス
- 三 緒論ニ於テハ世界史上ニ於ケル西洋史ノ位置、先史時代及有史時代ノ意義、西洋史上ノ民族西洋史ノ時代別等ニ就キテ説明スヘシ但シ教員ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得
- 四 日本史、東洋史ト交渉アル事蹟ハ西洋史ノ立場ヨリ説明スルハ勿論ナレトモ成ルヘク重複ヲ避クヘシ
- 五 生徒ニハ成ルヘク豫メ講義内容ノ摘要ヲ授クヘシ但シ教科書ヲ用フル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 六 三 哲學概説教授要目 (大正十二年 文部省訓令第二號)
- 第三學年(約九十時間)

教授方針

主要ナル哲學問題發生ノ理路ヲ説明シ、之ニ關スル顯著ナル諸說ヲ舉示且批評シ、哲學上重要ナル基礎概念ヲ與ヘ、學語ノ明確ナル意味ヲ知ラシムルヲ主トスルコト但シ現代ノ哲學及一般學術並文化ニ關係アル點ニ重キヲ置クコト

教授要目

- 一 哲學ノ概念
- 二 哲學ト科學
- 三 哲學ト宗教
- 四 哲學ト藝術
- 五 研究法一般ノ問題
- 六 辨證的方法
- 七 直觀的方法
- 八 先驗的方法

九 獨斷論、懷疑論、批判論等

- 一〇 實在ノ問題(形而上學一般)
- 一六 一元論、二元論、多元論等
- 一二 唯物論、唯心論等
- 一三 機械觀、目的觀等
- 一四 知識ノ問題(認識論一般)
- 一五 唯理論、經驗論、實證論等
- 一六 實在論、觀念論等
- 一七 絕對論、相對論等
- 一八 理論主義、心理主義等
- 一九 主知說、主意說等
- 二〇 人生ノ問題(文化哲學一般)
- 二一 人生觀(樂天觀、厭世觀等)

二二 自由論、必然論等

- 二三 道德ニ關スル諸哲學說
- 二四 宗教ニ關スル諸哲學說
- 二五 藝術ニ關スル諸哲學說
- 二六 歴史、法律等ニ關スル諸哲學說
- 二七 孔子及先秦諸子ノ學
- 二八 漢唐宋明ノ學
- 二九 日本ノ儒教
- 三〇 印度古代ノ哲學及宗教
- 三一 印度ノ佛教
- 三二 支那ノ佛教
- 三三 日本ノ佛教
- 三四 希臘哲學

- 二三五 基督教及中世哲學
- 二三六 カント以前ノ近世哲學
- 三三七 カント哲學
- 三三八 カント以後ノ獨逸哲學
- 三三九 十九世紀ノ英佛哲學
- 三四〇 現代ノ哲學
- 二八 備考
- 二四一 本要目ハ哲學概説ノ教授上主トシテ準據スヘキ教材ヲ擧ケタルモノニシテ其ノ選擇及排列ハ必スシモ之ニ據ルヲ要セス
- 二四二 要目中他ノ學科ト重複スルモノ(例ヘハ道德ニ關スル諸哲學説ノ如キ)ハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 二三三 歴史の叙述ハ成ルヘク簡單ナルヲ要ス且必スシモ體系的論述ト分離シテ之ヲ説クヲ要セス

文科

法制 (約六十時間)

- 一 社會 個人及國家 法律生活
- 二 法ノ本質 法ト道德 法ト習俗 法ト宗教 法ト經濟
- 三 國家及法律思想ノ發展
- 四 成文法 慣習法 條理 判例 法ノ解釋
- 五 權利及義務 法律上ノ人格
- 六 法ノ分類
- 七 帝國憲法ノ特色 皇室典範
- 八 天皇、帝國議會 國務大臣 裁判所

法制及經濟教授要目 (大正十五年 文部省訓令第四號)

四 要目中ニ掲ケサル學説及學語ニシテ重要ナルモノハ適當ナル場所ニ於テ之ヲ説明スルヲ要ス

- 九 臣民ノ權利義務
 - 一〇 行政組織 行政作用
 - 一一 私法ノ特質 私權ノ主體 法律關係 物 法律行為
 - 一二 物權 債權 商法
 - 一三 親族 相続
 - 一四 刑法ノ基本觀念 犯罪及刑罰
 - 一五 民事訴訟法及刑事訴訟法ノ主要問題
 - 一六 國際法ノ基本觀念 條約 國際聯盟
 - 一七 法律學 法律學派
- 文
- 經濟 (約六十時間)
- 一 社會 社會生活 經濟生活 經濟學
 - 二 財 効用 價值
 - 三 經濟ノ發展

- 四 現代經濟ノ特徵
- 五 生産 自然 勞働 資本
- 六 企業
- 七 交換 市場
- 八 貨幣 信用 金融
- 九 價格 物價 恐慌
- 一〇 分配 所得 地代 賃銀 利子 利潤
- 一一 消費 貯蓄
- 一二 保險
- 一三 經濟政策 (農業、工業、商業、交通等)
- 一四 社會政策
- 一五 人口 殖民
- 一六 財政 豫算 決算

- 一七六 租税と公債
- 一七八 經濟思想ノ發展

理 一四科 法 法制 (約三十時間)

- 一 社會 個人及國家 法律生活 法ノ本質
- 二 成文法 慣習法 條理 判例 權利及義務 法律上ノ人格
- 三 帝國憲法ノ特色 天皇 帝國議會 國務大臣 裁判所 臣民ノ權利義務
- 四 行政組織 行政作用
- 五 私權ノ主體 法律關係 物 法律行爲
- 六 物權 債權 親族 相續
- 七 刑法ノ基本觀念
- 八 民事訴訟 刑事訴訟
- 九 國際ノ基本觀念

經 濟 (約三十時間)

- 一 社會 社會生活 經濟生活
- 二 現代經濟ノ特徴
- 三 生産 企業
- 四 交換 市場 貨幣 信用 金融
- 五 價格 物價 恐慌
- 六 分配 所得
- 七 消費
- 八 經濟政策
- 九 社會政策
- 一〇 財政 租税 (公債)

備 考

一 本要目中ノ事項ハ多少其ノ順序ヲ變更シ又ハ分合ヲ行フコトヲ妨ケス

二 法制、經濟トハ何レヲ先ニ教授シ又ハ兩者並行シテ教授スルモ差支ナシ

五 文科數學教授要目 (大正十二年 文部省訓令第二號)

第一 學年附録(約九十時間)

一 幾何及代數ノ補充

八 平面及直線 多面體 塙 錐 球

四 指數及對數 順列及組合 二項定理 確率

二六 三角法

角ノ測リ方 三角函數 三角形ノ性質 逆三角函數

三四 平面解折幾何

三 坐標 軌跡ノ方程式 直線、圓、橢圓、雙曲線、拋物線ノ主ナル性質

四 微分積分

一 函數ト其ノぐらふ 極限值 連續 微分法 積分法

微分法ノ應用(函數ノ値ノ増減及極大、極小、曲線ノ切線及凸凹等)

三 積分法ノ應用(面積、曲線ノ長サ、體積等)

一〇 備

九一 此ノ要目ハ教授上主トシテ準據スヘキ教材ヲ舉ケタルモノナリ但シ其ノ

八 選擇排列ニ就キテハ多少ノ斟酌ヲ爲スヲ妨ケス

小二 必要ニシテ充分ナル條件、歸納法等ハ適宜ノ場所ニ於テ之ヲ教授スルモ

六 ノトス

正三 講義ノ進行ニ從ヒ時々練習問題ヲ課スルコトヲ要ス

四 六 理科數學教授要目 (大正十五年 文部省訓令第四號)

三 立體幾何 (約二十時間)

一 直線及平面

二 二面角及多面角

三 多面體(角塙、角錐、正多面體)

四 直圓塙及直圓錐

- 五 球及球面三角形
- 三三 角法 (約四十時間) (附註)
- 一 角ノ測リ方
- 二 三角函數
- 三 立 三角函數ノ値ノ變化 (附註)
- 四 六加法定理 (附註)
- 五 二 倍角及分角ノ三角函數
- 六 逆三角函數
- 七 二 三角方程式
- 八 常用對數
- 九 對數表及三角表ノ用ヒ方
- 一〇 三角形ノ性質
- 一一 三角形ノ解法及其ノ應用

一二 下ノモアヅルノ定理

一〇 解 折斷幾何力法 (約七十時間)

- 六 平行坐標及極坐標
- 二 直線
- 三 圓
- 四 坐標ノ變換
- 五 二次曲線ノ分類
- 六 橢圓、雙曲線及拋物線
- 七 二次曲線ノ一般論 直圓錐ノ截面
- 一 空 間ノ部
- 一 平行坐標及極坐標 坐標軸ノ平行移動
- 二 直線及平面

- 三 二次曲面ノ種類及母線等
- 一 代數代數數ノ對稱(約六十時間)ノ平直對稱
- 一 必要ナル條件 充分ナル條件
- 二 數學的歸納法 對稱 高圓盤ノ對稱
- 三 級數ノ和 曲線ノ對稱
- 四 順列及組合 對稱
- 五 二項定理 對稱
- 六 確率 對稱
- 七 不等式 對稱
- 八 複素數 對稱
- 九 平有理整式及代數方程式
- 一〇 對稱式及交代式(約六十時間)
- 一一 代數方程式ノ變換 對稱



- 一二 三次及四次方程式
- 一三 行列式

六 微分積分(約百七十時間)

- 一 變數及函數
- 二 極限值及連續
- 三 指數函數 對數函數 大極小
- 四 微分係數及微分 大極小 大極小
- 五 平均值ノ定理 漸近線
- 六 逐次微分法 漸近線
- 七 テーロルノ定理
- 八 極大極小 漸近線
- 九 不定形ノ極限值 漸近線

- 一〇 方程式論ニ於ケル應用
- 一一 無限級數ノ收斂及發散
- 一二 函數ノ展開
- 一三 對數表及三角表ノ原理
- 一四 多變數ノ函數ノ部分微分法
- 一五 多變數ノ函數ノテールノ定理及極大極小
- 一六 陰函數ノ微分法及極大極小
- 一七 幾何學ニ於ケル應用
- 一 切線及法線
- 二 漸近線
- 三 凹凸及彎曲點 (附百十問)
- 四 曲率
- 五 特異點

六 包絡線

七 縮閉線及伸開線

八 簡單ナル曲線ノ追跡

九 空間曲線ノ切線及法平面

一〇 曲面ノ切平面及法線

一 積

二 不定積分

三 定積分

四 重積分

五 平面圖形ノ面積

六 曲線ノ長サ (附六十問)

七 立體ノ體積

備

此ノ考ニ對シテ主イニモ詳述スヘキ條林ヲ舉グルコトナリテ凡ソ其ノ要ヲ

此ノ要目ハ教授上主トシテ準據スヘキ教材ヲ舉ケタルモノナリ但シ其ノ選擇
六 排列ニ就キテハ多少ノ斟酌ヲ爲スヲ妨ケス

正力 曲線學(約六十時間) (昭和二十二年
文部省訓令第三號)

質點ノ力學

- 一 質點ノ運動學
- 二 運動ノ法則
- 三 カノ場
- 四 えねるぎノ法則
- 五 えねるぎノ變衰
- 六 簡單ナル運動及平面
- 七 質點ノ平衡及直線
- 八 質點系ノ運動

剛體ノ力學

- 一 剛體ノ運動學
- 二 剛體ニ作用スル力
- 三 剛體ノ平面運動ノ法則
- 四 簡單ナル運動
- 五 剛體ノ平衡

備考

一、 ちうやくごころ法ノ概念ヲ導入スルヲ要ス
二、 説明ハ成ルベク物理的方法ヲ採ルベシ

七 自然科學教授要目 (大正十一年
文部省訓令第一號)

第一 學學年 (生物及地質) (約六十時間)

- 一 自然科學ノ意義
- 二 生物ト無生物、動物ト植物
- 三 生物ノ起原

- 四 生物體ノ構造（細胞、組織、器官、器官系）生物ノ高等下等
- 五 生物分類學ノ概念（詳見附録）
- 六 生理作用一般（榮養、呼吸、排泄、酵素、毒素、反毒素、免疫、內分泌、刺戟、趨向性等）（詳見附録）（第六十回問）
- 七 生殖作用（生殖細胞、無性生殖、有性生殖、性ノ決定）雌雄ノ分化
- 八 生物ノ個體發生及成熟期（詳見附録）
- 九 生物ノ壽命ト死（詳見附録）
- 一〇 變異及遺傳（遺傳現象、純系及雜系、實驗遺傳學、遺傳法則、遺傳物質ト細胞）
- 一一 品種改良 優生學
- 一二 生物ト環境（生物相互ノ關係、生物ノ生態的及地理的分布）
- 一三 生物ノ進化及進化説
- 一四 動物ノ智能ト發達
- 一五 人類ノ起原及發達

- 一六 人類ト他ノ生物トノ關係
- 一七 太陽系及其ノ一員トシテノ地球 太陽系生成ニ關スル學說
- 一八 地球ノ現今ノ狀態（氣圈、水圈、岩石圈、重圈）重圈ニ關スル學說
- 一九 地殼ノ構造（水成岩、火成岩、變成岩ノ成因、特性及現出狀態、主ナル岩石ノ實例、岩漿分化ノ現象）
- 二〇 地殼ノ變動（內因的及外因的の地質作用）
- 二一 地史學概論（前かむよりあ時代附あるごんさあ時代ノ生物、古生代、中生代及新生代ト各時代ノ生物）
- 二二 二人類ト礦物界トノ關係（詳見附録）
- 二三 概括（詳見附録）

備考

本要目ハ自然科学ノ教授上主トシテ準據スヘキ生物及地質ニ關スル主ナル教材ヲ舉ゲタルモノナリ但シ教材ノ選擇及排列ハ必スシモ之ニ據ルヲ要セス殊ニ本

要目ニハ生物ニ關スル事項ト地質ニ關スル事項トハ其ノ授業擔任者ヲ異ニスル
 場合ヲ考慮シ地質ニ關スル教材ヲ終リニ纏メテ配當シタルトモ同一教員ニテ全
 部ヲ受持ツ場合ニハ地質ニ關スル教材ヲ其ノ生物ニ關スル教材トノ關係ヲ參酌
 シテ適宜分配シ教材排列順ノ統一ヲ圖ルモ可ナリ

第二學年(物理及科學) (約九十時間)

物理學全理(各初分ノ中)

- 一一 自然科學ニ於ケル物理學ノ位置(初分ノ中)
- 一二 物理學ノ分類ト其ノ概要(初分ノ中)
- 一三 定律ト假設(初分ノ中)
- 一四 ニュートンノ運動ノ定律並其ノ證據(初分ノ中)
- 一五 萬有引力ノ定律並其ノ證據(初分ノ中)
- 一六 時間及時刻(初分ノ中)
- 一七 天體現象(初分ノ中)

八	わねるぎ(不可逆現象、熱力学)
九	熱力学ノ大要(熱力学第一、第二、第三法則)
一〇	分子運動説
一一	波動(波動式、干渉、偏光)
一二	光學ノ大要(反射、屈折、光ノ速度、干渉、偏光、すべくとる、輻射、吸收、屈折等)
一三	磁氣及靜電氣(静電誘導、静電誘引)
一四	電流(抵抗、熱作用、磁氣作用、機械的作用、電磁感應、直流並交流等)
一五	電氣振動(電磁波、電磁誘導)
一六	光ノ理論ト變遷
一七	氣體ノ電氣傳導(真空放電(陰極線、X線等))
一八	電子論(電磁誘導、電磁誘引)
一九	放射能(α、β、γ線)
二〇	量子論(光電効果、不連続性)

- 二一 自然ノ連續性及不連續性
- 二二 自然界ニ於ケル週期性
- 二三 自然現象ノ可逆及不可逆
- 二四 相對論
- 二五 化學
- 一 自然科學ニ於ケル化學ノ位置
- 二 物質ノ純非
- 三 元素ト化合物 化學量論ノ諸定律
- 四 分子說 原子說 其ノ證據
- 五 化學記號 化學方程式 原子價 構造式
- 六 炭素ト化學
- 七 熱化學(反應熱、發熱反應、吸熱反應等)
- 八 可逆反應ト不可逆反應 化學平衡

九 活動量ノ定律 フアントフ及ルシヤテリエノ原理

一〇 反應速度論 觸媒

一一 主ナル金屬ノ化學

一二 合金

一三 溶液 滲透壓

一四 電氣化學(電解傳導、電池等)

一五 分拆化學ノ大要

一六 膠質化學

一七 大氣

一八 燃燒 燃料

一九 化學工業ノ原料ト製品

二〇 油脂 炭水化物 發酵

二一 蛋白質 榮養品 嗜好品

二二 飲料水 用水

二三 呼吸及消化ノ化學

一八備 考

一八一 此要目ハ自然化學ノ教授上主トシテ準據スヘキ物理及化學ニ關スル主ナル

一八二 教材ヲ學ケタルモノナリ但シ教材ノ選擇及排列ハ必スシモ之ニ據ルヲ要セス

一八三 物理ト化學トノ授業時數ハ略同一トシテ適宜増減スルヲ得ルモノトス

一八四 此ノ要目ハ現行中學校教授要目ニ據リ第四學年ヲ修了シタル者ヲ標準トシ

一八五 テ作成セリ

三八 圖書教授要目 (大正十三年 文部省訓令第二號)

第一合學年 (約六十時間)

自在書

鉛筆書 木炭書 水彩書等

幾何書

一 概 說

製圖ニ關スル一般ノ注意

製圖用器具ノ檢査 修理及使用方法

尺度 (普通尺、斜線尺、遊尺等)

二 平面幾何書

圓錐曲線

高等曲線

第二學年 (約六十時間)

三 立體幾何書

正投影圖

點 線 平面 平面圖形 立體 曲面 切面 截斷 展開 相貫體

第三學年 (約六十時間)

正投影圖

五 陰影

三 附 (等角投象圖) 平面投象圖

斜投象圖

平面 平面圖形 立體 曲面 四面 錐面 圓錐 圓柱 圓球 圓環 圓錐面 圓柱面 圓球面 圓環面 圓錐面 圓柱面 圓球面 圓環面

透視圖

三 備 立體考

一 此ノ要目ノ外計算尺使用法、圖式計算法、工學製圖ヲ課スルコトヲ得

二 此ノ要目ニ舉ケタル教材ノ取捨排列ニ就キテハ多少ノ斟酌ヲ加フルコト

ヲ得

三 第一學年ノ自在画ト幾何畫トノ授業時數ハ略同一トス但シ事情ニ依リ

増減スルコトヲ得

九 物理教授要目 (昭和二年)
(文部省訓令第四號)

第二學年 第三學年 (通計百八十時間)

一 序論

- 一八 自然現象、量ノ測定
- 二 靜力學、質點、剛體
- 三 質點ノ動力學
- 一六 すけいらし量、うえくどる量、運動ノ法則、簡單ナル運動、質點系
- 四 剛體ノ動力學
- 一四 放進運動、迴轉運動、振動
- 五 萬有引力、重力
- 六 仕事、えねるぎー恒存力
- 七 彈性 ふつくノ法則、歪ノ種々ノ場合、彈性ノ餘效(簡)
- 八 摩擦
- 九 靜止スル液體

- 一〇 静止スル氣體
- 一一 表面張力
- 一二 流體ノ運動、全ノ流、組合、累對、錯對(簡)
- 一三 流體ノ運動、全ノ流、組合、累對、錯對(簡)
- 一四 熱膨脹、熱移動、熱ノ移動、熱膨脹、熱移動
- 一五 熱量測定
- 一六 温度ニ依ル状態ノ變化(化)量、蒸氣、凝固、融解、昇華、凝華、昇華
- 一七 熱力學ノ第一法則、熱力學ノ第二法則、氣體ノねねるぎ
- 一八 週期運動、量ノ測定

自由振動、強制振動

- 一九 波動
- 二〇 音、音波、音ノ三要素、音ノ組合セ、發音體ノ振動(簡)
- 二一 音波、樂音ノ三要素、音ノ組合セ、發音體ノ振動(簡)
- 二二 光ノ反射
- 二三 光ノ屈折、全反射、薄肉れんす、厚肉れんす(簡)
- 二四 光ノ分散
- 二五 光學器械
- 二六 物體ノ色
- 二七 光波

- 二八 光ノ干涉
- 二九 光ノ廻折
- 三〇 輻射線ノ諸作用
- 三一 光度測定
- 三二 暗黒體ノ温度輻射肉ノ法(前)
- 三三 すべてとる
- 三四 すべてとるノ種類、すべてとる線ノ變位
- 三五 偏光偏光
- 三六 結晶體ノ光學二要素、音ノ組合ナ、發音體、結晶(前)
- 三六 複屈折、偏光ノ干涉
- 三六 偏光面ノ廻轉、混濁、光ノ干渉、偏光、宝珠
- 三七 磁氣磁氣
- 三八 くーろんノ法則、磁場、磁氣感應、磁氣ト物質、地磁氣

- 三八 靜電氣の法則、電氣感應(前)
- 三九 帶電ノ方法、靜電感應、くーろんノ法則の法則、交流ノ實験
- 三九 電場
- 四〇 導體電氣容量ノ法則
- 四一 電氣容量
- 四二 電媒質の法則、電氣感應、電氣誘導、自由電氣、音ノ法則
- 四三 電池(化)
- 四四 電流ノ輪道の法則、電氣感應、電氣誘導、自由電氣、音ノ法則
- 四五 ねいむノ法則、さるひほつふノ規則、ぼてんし、たのーとる、ほのーとすとーん橋の法則、音ノ法則、電氣感應、電氣誘導、自由電氣、音ノ法則
- 四五 電流ノ化學作用(化)
- 四六 電流ノ熱作用の法則、電氣感應、電氣誘導、自由電氣、音ノ法則
- 四七 じゆーるノ法則、電流ノねねるぎ、熱ノ仕事當量ノ測定の法則、電氣感應、電氣誘導、自由電氣、音ノ法則

四七 熱電流

四六 熱電流ノ法則、ペルチエー及たむそん効果

四八 電流ノ磁氣作用

びわー さうあーるノ法則、簡單ナル場合ノ磁場、磁場力電流ニ及ホス作用、電流相互ノ作用

四九 電流計

五〇 電磁感應

れんつノ法則、感應動電力、感應係數、自己感應ヲ有スル輪道ノねるぎー

五一 電磁氣量ノ諸單位系

五二 交流

磁場中ニ在ルこいるの廻轉ニ依ル交流いんぴーだんす、交流ノ實效値、各種ノめーとる電力輸送(簡)

三八

五三 電氣工學機械

五四 電氣振動

電氣振動、電磁波、電磁光論、針金ニ於ケル電磁定常波、無線電信(簡)、無線電話(簡)

五五 真空放電

五六 X線

X線ノ性質、結晶體ノ原子排列、X線すべくとる原子番號、

五七 放射能

(簡) α 、 β 、 γ 放射線、放射性元素ノ變成ト其ノ系統、

五八 氣體中ニ於ケル電氣傳導

氣體ノいたん、飽和電流、電子、熱電子、光電子

五九 物質構造

質量すべくとる、同位元素、原子ノ構造、すべくとるノ系列輝線、

六〇 相對性 せーまん 及すたるく效果(簡)、原子ノ崩壊、量子論ノ概要、

特殊相對性理論ノ概要、

正注 注意ニ及ハ、

(簡)ヲ附記シタル事項ハ成ルヘク簡單ニ教授スヘキモノトス

(化)ヲ附記シタル事項及左記ノ事項ハ主トシテ化學ニ於テ教授スヘキモノ

トス

五六 液體ノ洶散、滲透、すべくとる分析、光化學、電氣分解

正備 真考

五一 本要目ハ教授ノ順序ニ排列セシモノニアラス

五二 中學校ニ於テ學習セシ知識ヲ有效ニ利用シテ授業時間ノ節約ヲ計ヘシ

五三 化學ト物理學ト互ニ交渉アル事項ハ兩者ノ要目ヲ参照スヘシ

五四 教授ニ當リ物理學ノ應用ニ關スル知識ヲ與フルニ注意スヘシ

一六 實 驗

第三 學 年 共約三十回 毎回二時間

一 實驗者ノ注意スヘキ事項

二 器械ノ取扱、實驗ノ仕方、誤差、數ノ計算、計算尺、

三 物體ノ大サノ測定

四 長サ、幅、厚サ、面積、球面半、

五 天秤使用法

六 彈性率、剛性率ノ測定

七 比重ノ測定

八 固體、液體、

九 表面張力ノ測定

一〇 せんまい秤、毛細管

一一 液體ノ粘性係數ノ測定

- 八 振子ニ依ル重力ノ測定
- 九 寒暖計
- 六 定點ノ決定
- 一〇 熱膨脹係數ノ測定
- 五 固體、液體
- 一一 比熱
- 三 固體、液體
- 一二 大氣ノ壓力ノ測定
- 一三 湿度ノ測定
- 一四 くとノ實驗
- 一五 音又ノ振動數ノ測定
- 一六 光度ノ測定
- 一七 圖示法、共鳴法

- 一七 れんすノ焦點距離ノ測定
- 一八 望遠鏡、顯微鏡ノ倍率ノ測定
- 一九 分光計
- 七 ぶりすむノ角、ぶりすむノ屈折率、液體ノ屈折率、すべくとる
- 二〇 光ノ波長ノ測定
- 二一〇 砂糖計
- 二二一 鐵ノ磁氣測定
- 磁氣ノ強サ、殘留磁氣、耐久磁石ノ強サ
- 二三 地磁氣ノ測定
- 二四 放電法ニ依ル電氣容量ノ測定
- 二五 電流計ノ恒數ノ測定
- 二六 電氣抵抗ノ測定
- あんべあめーとる、かるばのめーとる

- 二六 重固體、液體力ノ測定
- 二七 ぼてんしおめーとる法ニ依ル電池ノ動電力ノ測定
- 二八 熱電對ノ測定ノ斷定
- 二九 じゆしる熱ニ依ル熱ノ仕事當量ノ測定
- 三〇 交流ニ關スル實驗
- 備 考ノ題々、數曾懸案、輸入器具ノ取テ
- 二二一 實驗ハ教室備附ノ器械及實驗進行ノ程度ヲ考ヘ適宜取捨シテ之ヲ授クヘシ
- 二二〇 化學教授要目 (昭和二年) (文部省訓令第四號)
- 第二學年、第三學年 通計約百八十時間
- 總 論 (約四十五時間) 風評率、齋齋ノ風評率、サヘトス
- 一五 緒論
- 一六 元素、化合物ノ計量ノ斷定
- 一七 化學量論ニ關スル諸定律

- 一四 原子說、分子說
- 一五 元素ノ週期律
- 一六 原子構造概說
- 一七 氣體ノ性質
- 一八 氣體ノノ定律、狀態方程式、分子量ノ決定、氣體分子運動說
- 一九 液態ノ性質 (蒸氣壓、表面張力、溶解度、粘度、擴散、滲透、平衡) 其ノ外、固態ノ性質 (結晶、同素異形、同位素、同素異形ノ變遷、同素異形ノ平衡) 其ノ外、固態ノ性質 (結晶、同素異形、同位素、同素異形ノ變遷、同素異形ノ平衡)
- 一〇 狀態ノ變化
- 一 成分系ノ多相平衡
- 二四 混合氣體
- 二二 稀薄溶液
- 一五 滲透壓及關聯事項

- 一三 化学反應速度、化学平衡
- 一四 可逆及不可逆反應、質量作用ノ定律、化学反應速度、接觸作用、化学平衡
- 一五 電解質ノ水溶液
- 一六 電離說、ふあらでーノ定律、電解傳導、電離ノ平衡（中和、加水解離、溶解積等）
- 一七 多成分系ノ多相平衡
- 一八 固氣相ト液相（へんりーノ定律、分溜等）氣相ト固相（熱離、風解等）
- 一九 液相ト液相（相互溶解、分配ノ定律等）液相ト固相（溶解、共融等）其ノ他
- 二〇 膠質、透析、そる及げる、吸着
- 二一 熱化学
- 二二 元實熱量、熱化学方程式、へつすノ定律、生成熱、反應熱等
- 二三 電氣化学

電離溶壓、單極電位差、可逆及不可逆電池、蓄電池、濃淡電池、電解

- 一九 光化学
- 二〇 光化学反應、發光現象、すべくとる分析
- 二一 無機化学（約六十時間）
- 一二 水素及其ノ化合物
- 一三 はろげん族元素及其ノ化合物
- 一四 酸素族元素及其ノ化合物
- 一五 窒素族元素及其ノ化合物
- 一六 炭素珪素及其ノ化合物
- 一七 硼素及其ノ化合物
- 一八 金屬元素總論
- 一九 あるかり金屬及其ノ化合物、あむもにうむ化合物
- 二〇 銅族元素及其ノ化合物

- 一〇 まぐねしうむ、あるかり土金属及其ノ化合物
- 一一 亜鉛族元素及其ノ化合物
- 一二 あるみにうむ及其ノ化合物
- 一三 稀土類元素概説
- 一四 錫、鉛及其ノ化合物
- 一五 蒼鉛及其ノ化合物
- 一六 くろじ族元素及其ノ化合物
- 一七 まんがん及其ノ化合物
- 一八 鐵族元素及其ノ化合物
- 一九 白金族元素及其ノ化合物
- 二〇 錯化合物概説 (六十種間)
- 二一 稀有金属概説
- 二二 稀有氣體概説
- 二三 放射性元素概説

有機化学 (約七十五時間)

- 緒論
- 一 有機化合物ト無機化合物
- 二 有機化合物ノ分離、精製、分析
- 三 化学式、構造式
- 四 鎖式化合物
- 五 脂肪属炭化水素
- 六 飽和炭化水素、不飽和炭化水素、石油
- 七 炭化水素ノはろげん置換體
- 八 飽和一價あるこほる
- 九 わいてる、無機酸ノえすてる
- 十 種々ノ元素ノあるきる化合物
- 十一 あみん、ふおすふいん、かこちる、ぐりにある試薬等、

- 九 あるでひど、けとん
- 一〇 飽和一かるぼん酸
- 一一 かるぼん酸ノ誘導體
- 一二 えずてる、鹽化物、無水物、あみごにとりる等
- 一三 不飽和あるこほる及不飽和酸
- 一四 多價あるこほる
- 一五 多かりこる、ぐりせりん、脂肪、りぼいご等
- 一六 多かるぼん酸
- 一七 はろげんの酸、おきし酸、けと酸
- 一八 立體化學
- 一九 單糖類、多糖類、配糖類
- 二〇 しあん化合物及炭酸ノ誘導體、環式化合物
- 二一 芳香屬炭化水素、こーるたーる

- 二二 二〇四番 ほろげん置換體
- 二三 二一 にころ、あみの、あぞ及ちあぞ化合物
- 二四 二二 するふたん酸等
- 二五 二三 ふえるの、多價ふえるの、きのん
- 二六 二四 あるでひど、けとん
- 二七 二五 かるぼん酸、たきしかるぼん酸
- 二八 二六 染料
- 二九 二七 なふたれん、あんとらせん、ありざりん等
- 三〇 二八 ひごろ芳香屬化合物
- 三一 二九 てるべん、樟腦、ごむ等
- 三二 三〇 複素環式化合物
- 三三 三二 びりちん、びろん、ふらん、ちおふえん、びうる等
- 三四 三三 きのりん、いそきのりん等

- 三一 いんごる、べんぞびろん等
- 三二 尿酸、かふねいん等
- 三三 あるかろいど
- 三四 あみの酸、ぼりべぶちど、蛋白質
- 三五 生物體中ニアル他ノ化合物
- 葉綠素、酵素、ういたみん等
- 備 考
- 一 此ノ要目ハ化學ノ教授上準據スヘキ主ナル教材ヲ舉ゲタルモノナリ
- 二 教授ニ當リテ教材ノ排列ハ必スシモ本要目ノ順序ニ從フヲ要セス又總論中ノ事項ハ無機化學、有機化學中ニ適宜按排シテ授クルヲ妨ケス
- 三 教授ニ當リ製造工業、自然現象ノ化學的説明等化學ノ應用ニ關スル知識ヲ與フルニ注意スヘシ
- 四 化學ト物理學トノ兩方ニ密接ノ關係アル事項ハ重複ヲ避クヘシ

- 第三 學年ハ約三十回 毎回二時間
- 八 實驗臺ノ整理、洗滌ノ組立(一回)
- 九 簡單ナル無機化學實驗、普通ノ金屬ノ反應、普通ノ酸ノ反應(十二回)
- 十 定性分析(十二回)
- 十一 普通ノ金屬ノ檢出、普通ノ酸ノ檢出、未知物ノ臆別
- 四 容量分析(三回)
- 六 簡單ナル有機化學實驗(二回)
- 備 考
- 一 授業ニ當リテハ必スシモ本要目ノ順序ニ從フヲ要セス又無機化學實驗、有機化學實驗等ヲ分析實驗中ニ適宜按排シテ課スルヲ妨ケス
- 二 實驗ニ際シ器具機械類ノ正當ナル使用法ヲ會得セシムルニ注意スヘシ
- 三 分析事項ヲ課スルニ當リテハ反應ノ本質ヲ理解セシメ以テ機械的ニ操作ス

四、文部省直轄諸學校官制(抄) (明治廿六年八月廿五日) (訓令第八十六號)

第一條 文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

名稱 略

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 (教) 授 生徒監

助教授 (令) 書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條 生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ専ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十二條 第六條ニ掲クル職員ノ外東京高等學校ニ教諭及助教諭ヲ置ク教諭ハ奏任トシ助教授ハ判任トス

尋常科生徒ノ教育ヲ掌ル

第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十九條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

五、文部省直轄諸學校職員定員令(抄)

明治卅五年三月勅令第九十九號
大正十一年四月勅令第二百四號改正
大正十二年四月勅令第六十一號改正
大正十四年四月勅令第八十一號改正

弘前高等學校	校長	教授	助教授	書記
	一人	三十人	四人	六人

六、直轄諸學校校長職務規定

大正二年六月廿三日
文部大臣訓令

- 第一條 校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得
- 第二條 校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得
- 第三條 左ノ事項ハ校長之ヲ專行スヘシ
但シ第六號及第八號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ
- 第一 教官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト
- 第二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト
- 第三 俸給月額八十五圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト
- 第四 教官以下ノ内國各地出張ニ關スルコト
- 第五 教官以下ノ除服出仕請假ニ關スルコト

- 第六 講師ノ解職及其ノ報酬減額ニ關スルコト
- 第七 經費中ノ目ヲ流用スルコト
- 第八 三日以内ノ臨時休業ヲ爲スコト
- 第四條 前條ニ掲ケタルモノ、外ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

七、高等學校教員規程

大正八年三月廿九日
文部省令第十號

- 第一條 高等學校高等科教員免許狀ハ本令ノ定ムル所ニ依リ教員檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ授與ス
- 第二條 第九條第二號ニ該當スル者ニシテ高等學校教員養成ニ關スル規定ニ依リ教員タルノ義務ヲ有スル者ハ教員檢定ニ合格シタル者ト看做ス文部省外國留學生規定ニ依リ高等學校高等科教員タルノ義務ヲ有スル者亦同シ
- 第三條 第一條ノ免許狀及中學校教員免許狀ハ當該科目ニ關シ高等學校尋常科教員免許狀タルノ效力ヲ有ス

第四條 教員檢定ハ受験者ノ學力性行身體ニ就キ之ヲ行フ

第五條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ

- 一、修身
- 二、國語
- 三、漢文
- 四、英語
- 五、佛語
- 六、獨語
- 七、日本史及東洋史
- 八、西洋史
- 九、地理
- 十、哲學概説
- 十一、心理及論理
- 十二、法制及經濟
- 十三、數學
- 十四、物理
- 十五、化學
- 十六、植物
- 十七、動物
- 十八、地質及礦物
- 十九、圖畫
- 二十、書寫

前項ノ學科目ニ就キ試験檢定ヲ行フ場合ニ於テ第九條第六號ノ受験者ニ對シテハ檢定ヲ受ケムトスル學科目ニ併セ本人ノ選擇ニ依リ英語、佛語、獨語ノ中一科目ニ就キ其ノ學力ヲ試験スルモノトス但シ本人カ英語、佛語又ハ獨語ニ付中學校教員免許狀ヲ有スルトキ又ハ檢定ヲ受ケムトスル學科目ガ英語、佛語、獨語ノ中一ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 試験檢定ヲ行フ場合ニ於テハ受験者出願ノ學科目ノ試験ニ附隨シ其ノ教

授法ヲ試験スルモノトス

第七條 試験檢定ハ每年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試験檢定ハ隨時之ヲ行フ

試験檢定ノ出願期限及試験ヲ行フヘキ學科目ハ文部大臣之ヲ告示シ試験施行ノ期日及試験ヲ行フヘキ場所ハ教員檢定委員會長之ヲ公告ス

第八條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ願書(第一號書式)ニ左記ノ書類ヲ添ヘ試験檢定ニ在リテハ居所ノ地方廳ヲ經由シ無試験檢定ニ在リテハ居住地ノ地方廳若クハ當該學校ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

一、履歷書(第二號書式)及卒業證書若クハ免許狀ノ寫

二、第九條第二號乃至第五號ニ該當スル者ニ在リテハ當該學校長ノ證明書(第三號書式)

三、醫師ノ身體檢查書(第四號書式)

第九條 地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ性行ニ就キ意見ヲ具申スルコトヲ要ス左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ試験檢定ヲ受クルコトヲ得

- 一、學位ヲ有スル者
- 二、大學ヲ卒業シタル者又ハ大學ニ於テ試験ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者
- 三、高等師範學校ヲ卒業シタル者但シ修業年限二年ノ者ヲ除ク
- 四、專門學校本科又ハ神宮皇學館本科ヲ卒業シタル者
- 五、高等學校大學豫科又ハ學習院高等科及元高等學科ヲ卒業シタル者
- 六、當該學科目ニ關シ中學校教員免許狀ヲ有スル者
- 七、外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者
- 八、外國ニ於テ大學若クハ之ニ準スヘキ學校ニ入リ學位若クハ卒業證書ヲ有スル者
- 九、五年以上大學大學豫科高等學校專門學校又ハ之ニ準スヘキ學校ノ教員タリシ者前項第九號專門學校ニ準スヘキ學校ハ文部大臣之ヲ指定ス
- 第十條 第九條第一號第二號及第九號ニ該當スル者、高等師範學校專攻科又ハ東京高等商業學校專攻部ヲ卒業シタル者及及本邦ニ於テ高等學校若クハ之ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ外國ニ於テ大學學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ外國ニ於テ大學

- 若クハ之ニ準スヘキ學校ニ入學學位若クハ卒業證書ヲ有スル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得
- 第十條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケムトシタル者及試験ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發見シタルトキハ其合格ヲ無効トス
- 第十二條 高等學校專攻科教員ニ付テハ免許狀ヲ要セス公立及私立ノ高等學校ニ於テ專攻科教員ヲ採用セムトスルトキハ擔任學科目本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十三條 高等學校高等科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以内ヲ限リ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得
- 第十四條 體操ニ關シテハ高等科教員免許狀ヲ要セス
- 第十五條 高等學校高等科ニ於テ體操ヲ擔任スル教員ハ第十三條ノ關係ニ付テハ高等科教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス

第十六條 公立及私立ノ高等學校ニ於テ第十三條ノ規定ニ依リ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用セムトスルトキハ擔任學科日本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規定ハ體操ヲ擔任スル教員ノ採用ニ關シ之ヲ準用ス

第十七條 高等學校尋常科ニ於ルハ教員數ノ三分ノ一以內ヲ限リ第三條ノ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ後三年間ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第十三條ノ制限ヲ超ニ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

本令施行前文部省直轄學校ノ勅任又ハ委任ノ教官タリシ者ハ高等科教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス書式略ス

八、文部省直轄諸學校雇外國人ニ關スル規程

明治廿六年九月十一日 勅令第五十六號

帝國大學、官立大學及文部省直轄諸學校ニ於テ學科教授ノ必要アルトキハ帝國大學總長及直轄諸學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ雇外國人ヲシテ教官ノ職務ニ當ラシムルコトヲ得

九、高等學校高等科入學資格試驗規程

大正八年三月二十九日 文部省令第九號

第一條 高等學校規程第四十三條ノ高等學校入學資格試驗ヲ受ケムトスル者ハ年齡滿十六年以上ノ男子ニシテ身體健全品行方正且ツ現ニ中學校ニ在學セサル者タルヘシ

第二條 高等學校高等科入學資格試驗ハ文部大臣ノ指定シタル中學校ニ於テ便宜之ヲ發行シ

第三條 試驗ハ中學校第四學年マテノ必須各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ於テ之ヲ行フヘシ

第四條 中學校ニ於テハ高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交

付スヘシ

第五條 高等學校高等科入學資格試験ノ問題答案及成績表ハ五年以上保存スヘシ

第六條 中學校ニ於テハ本令ノ試験ニ付試験手数料ヲ徴收スルコトヲ得

一〇、専門學校入學者檢定規程

明治卅六年三月三十一日
文部省令第十四號

第一條 専門學校ノ本科ニ入學セムトスル者ニシテ中學校若クハ修業年限四箇年以上

ノ高等女學校ヲ卒業セサル者ハ此ノ規程ニ依リ檢定ヲ受クヘキモノトス

第三條 檢定ヲ受ケムトスル者ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

第一、年齢男子ハ十七歳以上女子ハ滿十六歳以上ナルコト

二、身體健全ナルコト

三、品行方正ナルコト

四、現ニ中學校若クハ高等女學校ニ在學セサルコト

第三條 檢定ヲ分テ試験檢定無試験檢定ノ二トシ試験檢定ハ官立公立ノ中學校若クハ

修業年限四箇年以上ノ高等女學校ニ於テ便宜之ヲ行ヒ無試験檢定ハ當該専門學校ニ

於テ生徒入學ノ際之ヲ行フ

第四條 試験檢定ノ學科目及其ノ程度ハ中學校若クハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ

各科目及其ノ卒業ノ程度トス

但シ中學校若クハ高等女學校ニ於テ加除シ又ハ課セサルコトヲ得ル學科目ハ之ヲ省

ク

第五條 官立、公立ノ中學校若クハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ニ合格シタル者ニハ

試験檢定合格證書ヲ交付スヘシ

第六條 官立、公立ノ中學校若クハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ノ問題答案及成績表

ハ五箇年以上保存スヘシ

第七條 官立、公立ノ中學校若クハ高等女學校ハ試験檢定手数料ヲ徴收スルコトヲ得

第八條 左ニ掲クル者ハ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

一、文部大臣ニ於テ専門學校ノ入學ニ關シ中學校若クハ(修業年限四箇年)高等女學

校ノ卒業者トシテ同等以上ノ學力ヲ有スル者ト指定シタル者

一一、官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程

大正八年四月十九日
文部省令第十四號

- 第一條 入學志願者ノ數當該高等學校生徒募集人員ニ超過シタルトキハ選拔試驗ヲ行
- 第二條 各高等學校ニ入學セシムヘキ生徒ノ概數選拔試驗ニ關スル細目出願ノ手續等
- 第三條 選拔試驗ノ學科目ハ中學校第四學年生迄ノ必修學科目中ニ就キ之ヲ選定ス
- 第四條 試驗ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル
- 第五條 選拔試驗ハ各高等學校同時ニ之ヲ行フ
- 第六條 入學志願者ハ其ノ入學後修業セムトスル科及類ヲ指定スヘシ

但シ志望ノ學校二校ノ場合ニ於テハ科ハ各別ニ之ヲ指定スルコトヲ得ス

- 文科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
 - 文科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ
 - 文科 丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ
 - 理科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
 - 理科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ
 - 理科 丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ
- 選拔試驗ノ外國語ニ英語ヲ選フ者ハ志望ノ類二箇以上(同一科内ノ類ニ限ル)ヲ併セ指定スルコトヲ得此場合ニ於テハ其ノ志望ノ類ノ順位ヲ定ムヘシ獨語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ文科内類又ハ理科丙類ニ限ル

一二、文部省直轄諸學校生徒ノ學校長ノ許可ナクシテ受ケタル
他ノ直轄學校入學試験無効ニ關スル規程 明治卅八年十月廿八日
文部省令第十八號

文部省直轄諸學校ノ生徒ニシテ學校長ノ許可ヲ受ケス他ノ文部省直轄諸學校ノ入學試
験ヲ受ケタルトキハ其ノ入學試験ハ無効トス

一三、文部省直轄諸學校外國人特別入學規程(抄) 明治卅四年十一月十一日
文部省令第十五號

第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラス所定ノ學科ノ一
科若クハ數科ノ教授ヲ受ケムトスル者ハ外務省在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ
紹介アルモノニ限り特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二條 前條ニ依リ教授ヲ受ケムトスル外國人ハ前條ノ紹介書ヲ添ヘ帝國大學總長若
クハ學校長ニ願出ツヘシ

第三條 帝國大學總長若クハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ相當ノ學力ア
リト認メタル者ニ限り之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ此ノ限ニア

ラス

第四條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受ケムトスル
者ニハ試験ノ上附與スヘシ

第五條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試験料入學料及授業料ヲ徴收セ
サルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設
クルコトヲ得

一四、臺灣人、朝鮮人文部直省轄諸學校入學ハ

外國人特別入學規程準用 明治四十四年四月四日
文部省令第十六號

文部省直轄學校外國人特別入學規定ハ臺灣人若クハ朝鮮人ニ之ヲ準用ス但シ其ノ入學
ニ關シテハ臺灣總督府又ハ朝鮮總督府ノ紹介ヲ要ス

(朝鮮留學生監督ノ紹介ヲ以テ總督府ノ紹介ト見做スコトニ明治四十四年十月六日官普一〇四號ヲ以テ
通牒アリ)

（臺灣留學生モ監督ノ紹介ヲ以テ總督府ノ紹介ト見做スコトニ大正元年十一月十六日警二三六號ヲ以テ）
（通牒アリ）

一五、學生生徒兒童身體檢查規程（抄）

大正九年七月廿七日
文部省令 第十六號

第一條 學生生徒兒童身體檢查ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ
但シ止ムヲ得ナル場合ハ五月ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得

監督官廳又ハ學校長ニ於テ必要アリト認ムルトキ又ハ學校醫ニ於テ必要ト認メ學校長ノ同意ヲ得タルトキハ身體檢查ノ全部若クハ一部ヲ臨時施行スルコトヲ得

第二條 身體檢查ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

學校醫ナキ場合若クハ學校醫カ身體檢查ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

學校職員又ハ他ノ適當ナルモノヲシテ身體檢查ノ一部ヲ助ケシムルコトヲ得

第三條 身體檢查ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ

一、發育、身長、體重、胸圍、概評）

二、榮養

三、脊柱

四、視力及屈折狀態

五、色神

六、眼疾

七、聽力

八、耳疾

九、齒牙

十、其他ノ疾病及異常

十一、監察ノ要否

前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ檢查ヲ行フコトヲ得
色神檢查ハ在學中一回行ヒタルトキハ其ノ後之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 身體檢查ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ

一、檢查ノ表記ニハ度ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ度ハ分、衡

- 一、ハタニ止ムヘシ
- 二、身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ
- 三、體重ハ着衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ着衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スヘシ
- 四、胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ乳頭ノ水平線ニ沿ヒ普通呼氣ノ終レル時ヲ測定スヘシ
- 五、發育ノ概評ハ別ニ定ムル標準ニ據リ甲、乙、丙ノ三分ツモノトス
- 六、營養ハ甲、乙、丙ニ分チ其ノ佳良ナルヲ甲トシ不良ナルヲ丙トシ其ノ中間ナルヲ乙トス
- 七、脊柱ハ正、左彎、右彎、前彎、後彎ヲ區別シ彎ニ就テハ凡テ其ノ凸側ニ依リテ前後左右ノ方向ヲ表示スルモノトス其ノ程度ハ之ヲ強弱ノ二種ニ區別シ自己ノ意思ニ依リ容易ニ矯正シ得ルモノヲ弱トシ然ラサルモノヲ強トス
- 八、視力ハ萬國式試視力表ニ就キ兩眼ヲ各別ニ検査シ裸眼視力ヲ記入スヘシ

- 九、色神ハ其ノ異常アルモノニ就キ色盲及色弱ヲ區別スヘシ
 - 十、聽力ハ其ノ障礙ノ有無ヲ検査スヘシ
 - 十一、歯牙ハ齶齒ニ就キ検査スヘシ
 - 十二、其ノ他ノ疾病及異常ハ検査ノ際發見シタルモノヲ記入スヘシ殊ニ結核性疾患、腺病、肋膜炎、心臟疾患及機能障礙、貧血、脚氣、傳染性皮膚病、腺樣增殖症及扁桃腺肥大「ヘルニヤ」神經衰弱、精神障礙ニ注意スヘシ
 - 十三、監察ノ要否ハ検査ノ結果身心ノ健康狀態不良ニシテ學校衛生上特ニ繼續的ニ監察ヲ要スト認ムル者ヲ「要」トシ記入スルモノトス
- 第五條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ身體検査票ニ記入シ本人同一種類ノ學校ニ在學中連年之ヲ繼續スヘシ

但程度ヲ異ニスル學科部類ヲ有スル學校ニ在リテハ其ノ部類毎ニ別票ヲ用フルモノ
 第一條第二項ノ臨時身體検査ノ際必要ト認ムル事項ヲ發見シタルトキハ之ヲ身體檢
 査票ノ裏面ニ記入スルモノトス繼續的監察ノ場合亦同シ
 他校ヨリ轉入シタル者アルトキハ學校長ハ前ノ學校ヨリ其ノ身體検査票ノ交付ヲ受
 ケ使用スヘシ身體検査票ハ學校長ニ於テ保管スヘシ
 第六條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其ノ結果ヲ本人若クハ其ノ保護者ニ示
 スヘシ授業免除、就學猶豫、就學免除、休學、退學又ハ治療保護矯正等ヲ要スヘキモノ
 アルトキハ本人若クハ其ノ保護者ニ對シテ特ニ注意ヲ與ヘ其ノ他必要ナル處置ヲ取
 ルヘシ
 第七條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ身體検査統計表ヲ調製
 シ其ノ六月限リ文部省直轄學校長及公立大學長ニ在リテハ文部大臣ニ報告スヘシ
 第八條 特別ノ事情アル場合ハ監督官廳ノ認可ヲ受ケ本令ノ身體検査ヲ行ハサルコト

一ヲ得

附 則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十三年文部省令第四號ハ之ヲ廢止ス

一六、發育概評決定標準(抄)

學生生徒兒童及幼兒ノ發育概評ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

- 一、七年ヨリ十八年マテノ男子ニ在リテハ被檢者ノ身長、體重、身長ヲ以テ體重ヲ除
 シタル商ノ三者カ何レモ左記發育標準表ニ照シテ當該年齡ヨリ一年々長ノ者ノ
 標準以上ナルヲ甲トシ、之ニ該當セスシテ一年々少ノ者ノ標準以上ナルヲ乙ト
 シ、甲乙何レニモ該當セサル者ヲ丙トス
- 二、十九年以上ノ男子ニ在リテハ身長五尺三寸、體重十四貫三百匁身長ヲ以テ體重
 ヲ除シタル商ガ二、七〇以上ナルヲ甲トシテ之ニ該當セスシテ身長五尺一寸八

分體重十三貫身身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カニ、五二以上ナルヲ乙トシ、甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

發育概評決定標準表

年 齡	身 體		重	身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商
	身	體		
十 五 年	四、八三	一〇、三三〇	二、一四	
十 六 年	五、〇四	一一、八六〇	二、三五	
十 七 年	五、一八	一二、八五〇	二、四八	
十 八 年	五、二五	一三、五三〇	二、五八	
十 九 年	五、二九	一四、〇二〇	二、六五	

一七、行幸啓ノ節學生生徒敬禮方

明治四十三年八月廿六日
文部省令第十八號

一、武裝携銃ノ場合

學校長及職員ハ全隊ノ右翼ニ指揮者ハ各中隊ノ右翼ニ位置シ豫メ劍ヲ銃ニ裝セシメ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車力中隊ノ右翼約十歩ニ近ツキタルトキ「捧銃」ノ號令ニテ一齊ニ捧銃ヲナサシメ御車力中隊ノ左翼約十歩ヲ過キタルトキ元ノ姿勢ニ復セシム御車力中隊ノ左翼ヨリ通過スルトキハ學校長職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

二、武裝セサル場合(女生徒ヲ含ム)

學校長及職員ハ全列ノ右翼ニ指揮者ハ各組ノ右翼ニ位置シ前驅ノ見エタルトキ「氣ヲ付ケ」ノ號令ヲ下シ一齊ニ脱帽キシメ直立不動ノ姿勢ヲ取ラシム御車力指揮者ノ前ニ達シタルトキ「禮」ノ號令ニテ敬禮セシム(體ノ上部ヲ約三十度前方ニ屈シ御車ニ注目セシム)「直レ」ノ號令ニテ元ノ姿勢ニ復セシム

御車力左翼ヨリ通過スルトキハ學校長職員及指揮者ハ左翼ニ位置ス

一八、高等學校高等科學力檢定規程

大正十一年十一月二日
發專一三六號文部大臣達

第一條 高等學校高等科學力檢定試験ハ帝國大學學部又ハ官立大學ヨリ其ノ入學志願者ノ學力檢定試験施行ノ通告アリタル場合ニ限リ高等學校ニ於テ施行ス
 試験ハ二月ニ於テ之ヲ施行ス

第二條 試験ハ高等學校高等科學卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ

高等學校高等科ニ入學スル資格ヲ有セサル者ニハ先ツ中學校第四學年迄ノ必修各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依ル學力檢定試験ヲ行フヘシ

第三條 試験ヲ受ケムトスル者ハ受験料金五圓ヲ納ムヘシ既納ノ受験料ハ何等ノ事由ニアルモ之ヲ還付セス

第四條 試験ニ合格シタル者ニハ證明書ヲ交付スヘシ

附 則

大學豫科學力檢定規程ハ之ヲ廢止ス

前條ノ規定ニ依リテ本條ノ規定ニ適合セザル者ハ先ツ中學校第四學年迄ノ必修各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依ル學力檢定試験ヲ行フヘシ

○弘前高等學校學則

第一章 總 則

第一條 本校ハ高等學校令ノ規定スル所ニ從ヒ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニカムルモノトス

第二條 本校ニハ高等科ヲ置キ之ヲ分テテ文科及理科トス

第三條 本校ノ修業年限ハ三年トス

第二章 學科課程

第四條 本校各科ノ學科目及教授時數ハ高等學校規程第一章第二節ニ依リ左表ノ如ク之ヲ定ム但シ外國語ハ英語及獨語トス

第二外國語ハ第一外國語ヲ英語トシタル場合ニ於テ之ヲ獨語トシ第一外國語ヲ獨語トシタル場合ニ於テハ之ヲ英語トス

第二外國語ハ隨意科目トス第二外國語ヲ履修セムトスル者ハ入學後七日以内ニ其旨

届出ツヘシ

文科學科課程表

學科	第一學年		第二學年		第三學年	
	上	獨	上	獨	上	獨
修身	一 實踐道德	同上	一 國民道德	同上	一 倫理學	同上
國語及漢文	六 國語作文	同上	五 國語作文	同上	五 國語作文	同上
英語	九 發音、綴字、讀方、譯解、書取、文法	同上	八 同上	同上	八 同上	同上
獨語	四 讀方、譯解、書取、文法	同上	四 同上	同上	四 同上	同上
歷史	三 日本史	同上	五 東洋史	同上	四 西洋史	同上
地理	二 世界各國ノ現狀	同上	五 西洋史	同上	四 西洋史	同上
哲學概說			三 東洋西洋ノ哲學宗教等ノ大意	同上	三 同上	同上

理科學科課程表

學科	第一學年		第二學年		第三學年	
	上	獨	上	獨	上	獨
計	三四	三五	三三	三四	三二	三三
體操	四 教練及體操	同上	三 教練及體操	同上	三 同上	同上
自然科學	二 生物、地質	同上	三 物理及化學	同上	三 同上	同上
數學	三 諸論大要	同上	二 法制	同上	二 經濟	同上
法制及經濟			二 法制	同上	二 經濟	同上
心理及論理			二 心理及論理	同上	二 同上	同上

英	獨	數	物	化	植物及動物	礦物及地質	心理	法制及經濟	圖
八 書話讀發 取方方音 文作譯綴 法文解字	四 書話讀發 取方方音 文作譯綴 法文解字	四 代數、 幾何、 三角	四 力學、 音響、 熱物性	三 無機化學	二 植物生理 分類形態 進化	二 地質、 礦物、 地質、 構造及 用途	二 大意	二 大意	二 自在畫 平面幾何 立體幾何
三 同上	一〇 同上	四 同上	三 同上	三 同上	二 同上	二 同上	二 同上	二 同上	二 同上
六 同上	四 同上	四 代數、 折幾何、 初等	三 同上	三 同上	二 動物生理 分類形態 進化	二 同上	二 同上	二 同上	二 同上
三 同上	九 同上	四 同上	三 同上	三 同上	二 同上	二 同上	二 同上	二 同上	二 同上
六 同上	四 同上	(二) 四 微分及 積分、 初等力學	五 電氣學、 光學、 磁氣	五 有機化學 實驗	(四) 植物、 動物、 實驗	二 同上	二 同上	二 同上	(二) 同上
三 同上	九 同上	(二) 四 同上	五 同上	五 同上	(四) 同上	二 同上	二 同上	二 同上	(二) 同上

體	採	計
四 教練及體 操、劍道、 柔道、 射擊	三四	三四
四 同上	三四	三四
三 教練及體 操	三四	三四
三 同上	三四	三四
三 同上	三四	三四
三 同上	三四	三四

第三章 學年學期、式日及休業日

第五條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條 學年ハ之ヲ分チテ三學期トス

第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期ハ一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第七條 紀元節、天長節祝日及一月一日ニハ拜賀式ヲ行フ

第八條 年中休業日左ノ如シ

- 一、八日 曜日
- 一、八日 大祭祝日

一、春季休業

三月十六日ヨリ
四月十日ニ至ル

一、夏季休業

七月十一日ヨリ
八月三十一日ニ至ル

一、冬季休業

十二月二十一日ヨリ
一月七日ニ至ル

一、本校創立記念日 四月十六日

第四章 入學、在學、休學、退學及轉科轉類

第九條 入學ノ時期ハ每學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第十條 第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ體格検査ニ合格ンタル者ニ限ル

一、中學校第四學年ヲ修了シタル者

二、高等學校尋常科ヲ修了シタル者

三、高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者

四、專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

五、文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者

六、文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シテ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第十一條 入學志願者ハ本校ヨリ入學志願者名票ノ交付ヲ受ケ之ニ所要ノ事項ヲ記入シ檢定料金五圓及最近撮影ニ係ル寫眞ヲ添ヘ指定ノ期日迄ニ本校ニ差出スヘシ

第十二條 入學志願者ノ數募集人員ニ超過シタルトキハ選抜試験ヲ行ヒ入學者ヲ定ム

選抜試験ノ程度方法ハ官立高等學校高等科入學者選抜試験規程ニ依ル

第十三條 願ニ依リ退學シタル者又ハ退學ヲ命セラレタル者ニシテ其ノ時ヨリ一年以

内ニ於テ再ヒ入學ヲ願出ツルトキハ詮議ノ上同一學年以下ノ學年ニ限り之ヲ許可スルコトアルヘシ但シ第一學年ニ再入學ヲ願出ツル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 入學許可ノ通知ヲ受ケタル者ハ戶籍謄本及入學資格證明書ニ入學料金參圓

ヲ添ヘ指定ノ期日迄ニ本校ニ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ指定ノ期日迄ニ前項ノ手續ヲ了セサル者ニ對シテハ入學ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十五條 一旦納附シタル檢定料及入學料ハ之ヲ返納セス

第十六條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ父兄及保證人連署ヲ以テ左ノ様式ニ在學證書ヲ差
出スヘシ但シ父兄アラサルトキハ父兄ニ代リテ其ノ責ニ任スヘキ者ヲ定ムヘシ

保證人ハ學校所在地附近ニ居住スル世帯主ヲ以テ入學資格證明書ニ入學料金證明

三條收
入印紙
消印

在學證書

私儀今般御校へ入學許可相成候ニ付テハ在學中ハ校則等堅ク相守ルハ勿論學籍ヲ脱

シ候後ト雖在學中ニ生シタル一切ノ義務ハ必履行可致候也

第十二條 入學志願書ハ本姓ヨリ入學科類第一票學生徒文ニシテ必要ノ事項ヲ記入

シ候後ト雖在學中ニ生シタル一切ノ義務ハ必履行可致候也

第十一條 入學志願書ハ本姓ヨリ入學科類第一票學生徒文ニシテ必要ノ事項ヲ記入

氏名

氏

名

六、文部大臣ニ付シテ一、入學科類第一票學生徒文ニシテ必要ノ事項ヲ記入

前文何某儀今般御校へ入學許可相成候ニ付テハ在學中監督保護ノ責ニ任スルハ勿論
學籍ヲ脱シ候後ト雖在學中ニ生シタル一切ノ義務ハ必履行可爲致萬一違背致候節ハ
拙者共ニ於テ一切引受可申候也

第二十條 入學志願書ハ本姓ヨリ入學科類第一票學生徒文ニシテ必要ノ事項ヲ記入

昭和 年 月 日

氏名

氏名

第二十條 入學志願書ハ本姓ヨリ入學科類第一票學生徒文ニシテ必要ノ事項ヲ記入

籍 族籍 業務

第二十條 入學志願書ハ本姓ヨリ入學科類第一票學生徒文ニシテ必要ノ事項ヲ記入

年 月 日 生

弘前高等學校長 何 某 殿

第十七條 生徒轉科轉類ヲ願出ツル者アルトキハ缺員アル場合ニ限り特ニ之ヲ許可ス

ルコトアルヘシ
轉科轉類ノ手續及取扱方ニ關シテハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 父兄及保證人ノ住所印鑑氏名等ニ變更ヲ生スルトキハ直ニ届出ツヘシ

第十九條 父兄及保證人死亡スルカ又ハ其ノ義務ヲ盡ス能ハサルニ至リタルトキハ第

十六條ニ從ヒ直チニ届出ツヘシ

第二十條 生徒病氣又ハ事故ノ爲缺席又ハ缺課セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ學

校長ニ届出ツヘシ其ノ届出方及取扱方等ニ關シテハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 生徒病氣又ハ事故ノ爲三箇月以上出席スルコト能ハサル見込ノ者ハ(病氣トキハ醫師診斷書ヲ添ヘ)父兄及保證人連署ノ上當該學年休學ヲ願出ツルコトヲ得

第二十二條 陸軍又ハ海軍ノ現役ニ服シ若クハ召集ニ應スル者ハ其ノ服役又ハ召集ノ

間休學トス

第二十三條 休學ハ同一學年ニ於テ一回ニ限ルモノトス但シ第二十二條ニ依ル休學者

ハ此ノ限ニアラス

病氣ノ爲引續キ二年以上同一學年ニ休學ヲ願出ツルトキハ詮議ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十四條 休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學年ノ始ヨリ原級ノ課程ヲ修ムルコトアルヘシ但シ學年ノ半途ニ於テ休學ノ事由止ミタルトキハ願ニ依リ原級ニ復セシムルコトアルヘシ

第二十五條 生徒病氣又ハ事故ノ爲退學セムトスル者ハ父兄及保證人連署ノ上(病氣ナハ醫師診斷書ヲ添ヘ)願出ツヘシ

第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命ス但シ第七號ハ第二十二條ノ休學ニハ適用セス

一、品行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三、引續キ一年以上缺席シタル者

四、正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五、出席常ナラサル者

六、授業料寄宿料ノ滯納三十日ニ及フ者

七、二箇年ヲ超ユルモ同一學年ニ止マル者但シ特別ノ事情アリト認定セシ者ハ此ノ

限ニ在ラス

第五章 懲戒

第二十七條 校規風紀ヲ紊乱シ其ノ他生徒タル本分ニ背戻スル者ハ之ヲ懲戒ス

懲戒ハ之ヲ分ツテ戒飭停學及放校ス

戒飭ハ訓誨ヲ加ヘ停學ハ登校ヲ停止シテ謹慎セシメ放校ハ學校ヨリ放逐スルモノト

ス

第六章 成績考查修了及卒業

第二十八條 學業ノ成績ヲ分チラ學期成績學年成績及卒業成績トス

學期成績ハ學期毎ニ各學科目ニ就キ試験及平常ノ課業ノ成績ヲ考查シ且ツ勤惰ヲ參

酌シテ之ヲ定ム但シ學科目ノ種類ニ依テハ其ノ全部又ハ一部ノ試験ヲ行ハサルコト

アルヘシ

第二十九條 學年成績ハ當該學年ニ於ケル各學期評點ノ和ヲ三除シテ之ヲ定ム
卒業成績ハ三學年間ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ム
第三十條 試験成績考查ニ關シテハ別ニ細則ヲ以テ之ヲ定ム
第三十一條 卒業學科ヲ卒業シタル者ニ對シテハ卒業證書ヲ授與ス卒業證書ノ様式ハ左

通定之ヲ定ム

卒業證書

卒業證書

卒業證書

卒業證書

卒業證書

卒業證書

卒業證書

卒業證書

卒業證書



右者本校ニ於テ高等科文(理)科ノ學科ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證スル人

昭和 年 月 日

弘前高等學校長 位勳 爵位 氏 名

第七號

第七章 授業料

第三十二條 授業料ハ一學年金六拾五圓トス但シ大正十一年度乃至大正十三年度入學者ニ在リテハ金五拾圓トス

授業料ハ三期ニ分テ徵收ス其ノ分納金額左ノ如シ

大正十四年度以降入學者

大正十一年度乃至大正十三年度入學者

第一學期分	金貳拾圓	金拾五圓
第二學期分	金貳拾五圓	金貳拾圓
第三學期分	金貳拾圓	金拾五圓

授業料徵收期日ハ別ニ之ヲ定ム
 第三十三條 既納ノ授業料ハ之ヲ返附セズ
 第三十四條 授業料ハ缺席停學等ノ爲ニ免除スルコトナシ但シ第二十二條ニ依ル休學者ニ限リ次學期以降ノ分納額ヲ全免シ爾餘ノ休學者ニ對シテハ次學期以降ノ分納額

ヲ半減ス

第三十五條 學期開始後退學スル者ノ授業料ハ其ノ學期分ヲ徵收ス

第三十六條 授業料ヲ一定ノ期日ニ納附セザル者ニ對シテハ之ヲ納附スル迄出席ヲ停止ス

止ス

第三十七條 第十三條ニ依リ再入學ノ許可ヲ受ケタル者ノ當該學期分ノ授業料分納額ハ一箇月金六圓五拾錢第二十二條ニ依リ休學シタル者學期ノ半途ニ於テ課業ニ就キタルトキハ當該學期分ノ授業料分納額ハ一箇月金六圓五拾錢(大正十一年度乃至大正十三年度入學者ニ在リテハ金五圓)ノ割合ヲ以テ其ノ月分ヨリ之ヲ徵收ス

第三十八條 第二十一條ノ休學者ニシテ學期ノ半途ヨリ原級ニ復シタルトキハ當該學期分授業料分納額ハ既納授業料ノ月割額ト同一ノ額ヲ其ノ月分ヨリ之ヲ徵收ス
 第三十九條 前二條ニ依ル授業料ハ指定ノ期日ニ於テ一時ニ之ヲ納附セシム
 但シ第一學期分授業料ノ月割額ニ關シテハ七月八月ヲ算入セス

第八章 校章及服制

第四十條 校章ハ左ノ徽號トス又 頭牌



第四十一條 生徒ハ所定ノ服裝ヲナスルニ新ニ入學シタル生徒ニ對シテハ入學後三十

日間ハ前項ノ規定ヲ適用セス

第四十二條 服制ハ左ノ通之ヲ定ム

一、正 帽

第三十制式 九形 品質 絨

第三十色 黒 前章 本校所定ノ徽章(真鍮製金色)

橫章 白線二條(幅各二分ニシテ間隔二分)

第二 服 質 絨又ハ小倉

第四十一 色 濃紺又ハ黒 鈕釦 本校所定ノ金色真鍮製ノモノ又銀

襟章 文科ハL 理科ハBヲ左襟ニ附ス

三、夏 服 品質 黒又ハ紺

制式 冬服ニ同シ 品質 小倉

色 藍鼠又ハ霜降 鈕釦 冬服ニ同シ

襟章 冬服ニ同シ 品質 紺又ハ黒

四、略 帽(夏季ノミ之ヲ用フ)

制式 藁麥普通形(縁約三寸高約三寸)

鉢卷 黒地 幅約一寸七分ニ白線二條ニシテ幅各二分)

前章 正服ニ同シ

五、靴

制式

短靴又ハ編上ケ

品質革又ハ「ズック」

色

黒

六、脚

制式

襪脚絆

品質 綿布又ハ羅紗

色

濃紺又ハ黒

七、マフ

品質

羅紗

色 黒又ハ紺

第九章 寄宿寮規程

第四十三條

寄宿寮ハ生徒ヲ居住セシメ本校教育ノ趣旨ト相俟テ之カ訓育ヲナス所トス

ス

第四十四條

寄宿寮ハ一學年ヲ以テ一期トシ其開閉ノ時期ハ學年ト終始スルモノトス

第四十五條

新ニ第一學年ニ入學シタル生徒ハ特別ノ事情ニ依リ許可ヲ受ケタル者ノ

外ハ總テ寄宿寮ニ入ルヘキモノトス但シ寄宿スヘキ者ノ數收容定員ニ超過スルトキハ通學ヲ命スルコトアルヘシ

第四十六條

在寮生徒ニシテ病氣ニ罹リタルトキハ退寮又ハ外泊セシムルコトアルヘシ

第四十七條 寄宿料ハ一學年金拾六圓五拾錢トシ左ノ三期ニ分チテ之ヲ徵收ス

第一學期分 金六圓

第二學期分 金六圓

第三學期分 金四圓五拾錢

寄宿料徵收期日ハ別ニ之ヲ定ム

寄宿料徵收期日後入寮スル者ノ寄宿料ハ學期分ヲ月割計算トシ其ノ月分ヨリ又徵收期日前ニ退寮スル者ノ寄宿料ハ其ノ月分ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於ケル月割額ハ金壹圓五拾錢トス但シ第一學期分ノ月割額ニ關シテハ八月ヲ算入セス

第四十八條 既納ノ寄宿料ハ返附セス

第四十九條 寄宿寮食費ハ規定ノ期日ニ於テ生徒監ニ納附スルニシテ、且諸部ニ關シテハ食費及其ノ徴收期日ハ別ニ之ヲ定ムル旨モ附シ

本學則ハ昭和二年四月二日ヨリ之ヲ施行ス

- 第一學限衣 金六圓
- 第二學限衣 金六圓
- 第三學限衣 金六圓

第四十六條 洗濯料ハ一學年金六圓正付録イニ式ノ三限ニ依テ之ヲ徴收ス

第四十七條 沐浴料ハ一學年金六圓正付録イニ式ノ三限ニ依テ之ヲ徴收ス

第四十八條 沐浴料ハ一學年金六圓正付録イニ式ノ三限ニ依テ之ヲ徴收ス

第四十九條 沐浴料ハ一學年金六圓正付録イニ式ノ三限ニ依テ之ヲ徴收ス

○細則

一、生徒心得細則

第一章 服

第一條 登校ノ際ハ制服、制帽ヲ着用スヘシ

但シ己ムヲ得スシテ和服ヲ着用スル場合ニハ期間ヲ定メ豫メ其ノ旨ヲ生徒監ニ願出テ許可證票ヲ受ケテ入場スヘシ

第二條 外出ノ際ハ制服制帽又ハ和服ニ袴ヲ着ケ制帽ヲ戴クヘシ

第三條 帽章ハ本校生徒監ニ於テ之ヲ交附ス

第四條 六月一日ヨリ九月三十日迄ハ夏服其ノ他ノ時期ハ冬服ヲ着用スヘシ

但シ季節ノ寒暖ニ因リテ更衣ノ期日ヲ變更スルコトアルヘシ

第五條 體操科授業ノ際ハ制服制帽ニ靴ヲ穿用スヘシ

第二章 規

- 第六條 教官其ノ他尊長ニ對シ敬禮ヲナスハ勿論生徒間ニ在リテモ互禮ヲナスヘシ
- 第七條 校舎内ニ在リテハ所定ノ場所以外ニ於テ飲食喫烟スヘカラス
- 第八條 生徒ハ其ノ體面ヲ汚損スルノ虞アル料理店其ノ他ノ場所ニ出入スヘカラス
- 第九條 達示告示等ハ三日ヲ經過スレハ之ヲ撤去スヘキニヨリ常ニ揭示場ニ注意スヘシ
- 第十條 生徒揭示ヲナサムトスルトキハ豫メ生徒監ノ許可ヲ受ケ捺印ヲ求メ所定ノ場所ニ公示スヘシ但シ校友會ニ關スルモノハ豫メ部長ノ承認ヲ受クヘシ
- 第十一條 登校ノ際ハ生徒昇降口ヨリ昇降シ備付ノ靴拭ニ依リ各自ノ靴ヲ丁寧ニ拂拭スヘシ但シ下駄穿キノ場合ハ之ヲ所定ノ箱ニ入レ置クヘシ
- 第十二條 床上ニ於テハ靴、上草履以外ノ履物ヲ用フヘカラス
- 第十三條 木校ノ建物及器物ヲ毀損シ又ハ汚染スヘカラス誤テ之ヲナシタル場合ト雖辨償セシムルコトアルヘシ
- 第十四條 電話ヲ使用セムトスルトキハ會計課ノ許諾ヲ受クヘシ

- 電話ヲ市外ニ通セムトスルトキハ其ノ組氏名ヲ告ケ通話料金ヲ會計課ニ供託スヘシ
- 第十五條 本校生徒ハ學校長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ他學校ノ入學試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 第十六條 教室ノ席次ハ漫ニ移スヘカラス
- 第十七條 受持教官授業時間ニ至ルモ出勤セザルトキハ教務課ニツキ其ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第十八條 每學年始業後十日以内ニ本校規定ノ寄宿届ヲ生徒監ニ提出スヘシ又轉宿シタルトキハ轉宿ノ當日ヨリ三日以内ニ其ノ宿所ヲ届出ツヘシ
- 第十九條 本校ニ於テ不適當ト認メタル宿所ハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ
- 第二十條 生徒及父兄ニシテ戶籍上ノ變更ヲ生セシトキハ其ノ謄本ヲ添ヘ速ニ届出ツヘシ
- 第二十一條 圖書ノ閲覽ニ關シテハ圖書課ニ照合スヘシ
- 第二十二條 近火其ノ他異變ノ際ハ直ニ登校シ職員ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十二條 生徒ハ總テ本校校友會員タルヘキ義務アルモノトス

第二十三章 第二章 集會

第二十四條 集會ヲ催サムト欲スルトキハ時間、目的、人數、會費、場所、年學級、團體名、

第一代表者ヲ具シテ豫メ生徒監ニ届出ツヘシ

第二十五條 定期ノ集會、學術、運動等ノ會ヲ創設セムトスルトキハ生徒監ニ願出ツヘ

ク之ヲ解散シタルトキ亦生徒監ニ届出ツヘシ

第二十六條 集會ノ節本校校舍ヲ使用セムトスルトキハ生徒監ニ願出テ其ノ指揮ヲ受

クヘシ

第四章 級長

第二十七條 級長ハ一學級二名トシ當該學級生徒ヲシテ候補者ヲ互選セシメ其ノ中ニ

就キ學校長之ヲ命ス

級長ノ任期ハ一ケ年トス

但シ第一學期間ニ限リ各科第一學年ニ在リテハ學校長之ヲ命ス

第二十八條 級長ハ當該學級ノ秩序ニ注意シ學校ノ命令ヲ傳達シ又必要アルトキハ同

級生徒ノ意思ヲ代表シテ當局ニ具陳スルモノトス

第二十九條 級長二人ハ互ニ協同シテ其ノ本務ヲ遂行スヘシ

第五章 缺席、缺課

第三十條 病氣又ハ事故ノ爲ニ缺席或ハ缺課スルトキハ當日ヨリ三日以内ニ其ノ事由

ヲ詳記シ學級主任ヲ經テ生徒監ニ提出スヘシ但シ病氣ノ爲試験ヲ缺クトキ若クハ七

日以上缺席スルトキハ醫師ノ珍斷書ヲ添付スルヲ要ス缺課ノ際ハ當日ニ限リ口頭届

出ヲ届書ニ代用スルコトヲ得

第三十一條 遲參セシトキハ當該時間受持教官ノ許可ヲ經テ入場シ當日ヨリ三日以内

ニ其ノ理由ヲ詳記シテ届出ツヘシ

但シ遅刻三十分ヲ過クルモノハ當該時間ヲ缺課セルモノト見做ス

第三十二條 試験ノ際遅刻十分ニ及フモノハ入場スルコトヲ得ス

第三十三條 左記ノ事由ニヨリ缺席スルトキハ忌引トシテ取扱フ

但シ其ノ死亡者ト自己トノ親族關係ヲ明記シテ届出ツヘシ

一、父母ノ喪ニ丁リタルトキハ七日以内

二、祖父母兄弟姉妹ノ喪ニ丁リタルトキハ五日以内

三、其ノ他ノ服忌ヲ受クル場合ハ三日以内

第三十四條 徴兵検査及勤務演習ノ爲缺席セムトスルトキハ往復ノ日數ヲ豫定シテ届出ツヘシ

前項及前條ノ缺席ハ成績考査細則第十二條但書ニ於ケル出席率ニ影響セシメサルモノトス

二、成績考査細則

第一條 成績ハ評點ニヨル

第二條 評點ハ各科目一百ヲ以テ滿點トス

第三條 各科學年ニ於ケル學科目單位左ノ如シ

物 理	自 然 科 學	數 學	法 制 及 經 濟	心 理 及 論 理	哲 學 概 說	地 理	歷 史	第 二 外 國 語	第 一 外 國 語	國 語 及 漢 文	修 身	文	第	一	科	理	學	年	第	二	科	理	學	年	第	三	科	理	學	年
												理	文	理	文	理	文	理	文	理	文	理	文	理	文	理	文	理	文	理
	—	—				—	—	—	三	二	—																			
		二	—					—	三	二	—																			
	—		—	—			二	—	三	二	—																			
—		二		—				—	三	—	—																			
		力學(一)二三		—	—			—	三	二	—																			
二								—	三		—																			

化學									
植物及動物									
礦物及地質									
圖書									
體操									
合計	一二	一四	一三	一四	一一	一二	一四	(一)	二

備考 本表中()ハ選擇科目ニシテ力學及圖書又ハ動物及植物ノ何レカヲ選ハシム
獨語ヲ以テ入學シタルモノハ獨語ヲ第一外國語トシテ課スルトキハ之ヲ一トス

第四條 學期評點ハ學期試驗點ニ平常ノ成績出席及勤惰ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第五條 學期試驗ハ各學期末ニ於テ之ヲ行フ

但學科ニヨリ特ニ學校長ノ許可ヲ得テ學期試驗ヲ行ハサルコトヲ得

第六條 試驗問題ニ就キテハ擔任教官ハ學科主任ノ檢閱ヲ經ヘシ

第七條 左ノ學科ニ在テハ學期試驗ヲ施行セス

作文、體操、實驗、圖書中自在書

第八條 擔任教官ハ學期試驗施行後三日以内ニ評點ヲ報告スヘシ

第九條 學年評點ハ三學期評點ノ和ヲ三除シテ之ヲ定ム

第十條 生徒ノ席次ハ第一學年ニ在テハ入學試驗ノ成績ニヨリ其ノ他ニ在テハ前學
年ノ成績ヲ按シ同科同類ニツキ之ヲ定ム

但第二外國語ヲ履修セサルモノハ別位ニ置ク

第十一條 試驗ヲ缺キタルモノ、試驗點ハ零トス

但シ缺試ノ理由正當ナルトキハ當該學科當該期ニ於ケル出席率多キモノニ限リ他ノ
二學期當該試驗點ノ平均七割以内ヲ以テ當該學期ノ認定試驗點トナスコトアルヘシ

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ學期認定評點ヲ附與セス

- 一、停學ノ處分ヲ受ケタル爲試驗ニ缺席シタルモノ
- 一、正當ノ理由ナクシテ試驗ニ缺席シタルモノ

第十三條 學年成績左ノ條件ニ適合スルモノハ及第トス

平均点以上ニシテ總科目數ノ三分ノ一以內六十点未滿五十点以上ノモノ

但三分ノ一計算ハ四捨五入トス六十点未滿ノ科目中一科ノミ四十点以上五十点未滿ナルコトヲ得

全科目數ノ中二科目ノミ四十点以上五十点未滿ナルコトヲ得

三、轉科轉類細則

第一條 第一學年ニ轉科轉類セムトスル者ハ一月末日迄第二學年以上ハ二月末日迄ニ父兄及保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第二條 轉科轉類ハ同一學年若クハ其レ以下ノ學年ニ限ル

第三條 第一學年ニ轉科轉類セムトスル者ニハ入學選抜試験ヲ受ケシム

第四條 第二學年以上ニ轉科轉類セムトスル者ニハ缺員アル場合ニ限リ從來ノ操行及學業成績ヲ参考シタル上檢定試験ヲ課ス

第五條 檢定試験ハ轉入セムトスル科類ニ於ケル前學年以下ノ全科目ニ就キ之ヲ課

スルモノトス但シ轉科轉類セムトスル者ノ既修シタル學科目ニシテ其ノ内容程度及每週教授時數ニ於テ同等以上ト認ムヘキ場合ハ當該學科目ニ限リ試験ヲ課セサルコトヲ得

第六條 轉科轉類ノ時期ハ學年ノ始トス

四、授業料寄宿料及寄宿寮食費細則

第一條 授業料寄宿料及寄宿寮食費徵收期日ハ左ノ通之ヲ定ム

第一學期分授業料及寄宿料 四月二十日ヨリ 同月二十二日マテ

第二學期分授業料及寄宿料 九月八日ヨリ 同月十日マテ

第三學期分授業料及寄宿料 一月十六日ヨリ 同月十八日マテ

前項ノ期中休業ニ當ル日アルトキハ順延ス

寄宿寮食費ハ毎月二十日迄(八月ヲ除キ)但七月ハ十日迄三月ハ八日迄

第二條 授業料及寄宿料ハ前條ノ徵收期日内ニ所定ノ納付書ヲ添ヘ會計課ニ納付ス

ヘシ

第三條 第一條ノ徵收期日ヲ過キテ納付ノ義務ヲ生シタル授業料寄宿料又ハ寄宿寮食費ハ其ノ義務ヲ生シタル日ヨリ三日以内ニ之ヲ納付スヘシ

第四條 己ムヲ得サル事故ノ爲第一條及第三條ノ期日内ニ授業料寄宿料又ハ寄宿寮食費ヲ納付スルコト能ハサル者ニ對シテハ七日以内ヲ限り徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第五條 第一條第三條及第四條ノ期限内ニ授業料寄宿料又ハ寄宿寮食費ヲ納付セサル者ニ對シテハ之ヲ納付スル迄授業ヲ停止ス

五、學級主任規程

學級主任ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ次ノ事項ヲ擔任ス

- 一、擔任學級生徒ノ勤惰、操行、學業、健康等ニ關スル事項
- 二、擔任學級生徒ノ願書、届書ヲ審査シ之ニ捺印スルコト

六、學科主任規程

學科主任ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ次ノ事項ヲ擔任ス

- 一、當該學科教授上ノ整理及統一ニ關スル事項
- 二、他學科トノ連絡又ハ交渉ニ關スル事項
- 三、當該學科ニ屬スル圖書、器具、機械、標本及消耗品等ニ關スル事項

七、校務分掌規程

- 第一條 本校ニ教務課、生徒課、圖書課、庶務課及會計課ヲ置キ事務ヲ分掌セシム
- 第二條 教頭ハ本校教育事務ノ統一ヲ掌ルヲ以テ任トス
- 第三條 各分課ニ課長又ハ主任ヲ置キ所屬職員ヲ率キ分掌事務整理ノ責ニ任セシム
- 第四條 分課所屬ノ職員ハ課長又ハ主任ノ指揮ヲ受ケ事務ニ從事ス

但シ必要ニ應シ他課ノ事務ヲ補助スルモノトス
 第五條 各課ノ擔任事項ニシテ他課ニ關聯スルモノニ付テハ當該各課ノ合議ニヨリ
 處理スヘキモノトス

第六條 教務課ノ擔任スヘキ事項左ノ如シ

- 一、學科、課程及教授要目ニ關スルコト
- 二、教官ノ分擔及配當時間ニ關スルコト
- 三、學級ノ編成及授業時間ニ關スルコト
- 四、教科用圖書ニ關スルコト
- 五、授業及休業ニ關スルコト
- 六、教官ノ缺勤早退及遅刻届書類ニ關スルコト
- 七、教務課ニ屬スル文書ノ起案ニ關スルコト
- 八、生徒募集及入學並ニ志望學科ニ關スルコト
- 九、成績証明ニ關スルコト

- 一〇、試業、進級、卒業ニ關スルコト
- 一一、卒業者大學進入ニ關スルコト
- 一二、學級主任及級長ニ關スルコト
- 一三、教授會議、學科主任會議及學級主任會議ニ關スルコト
- 一四、行軍演習ニ關スルコト
- 一五、講堂、會議室、教官室、教室、教務課ノ設備及其ノ物品ニ關スルコト
- 一六、教務日誌ニ關スルコト
- 一七、參觀人取扱ニ關スルコト
- 一八、其ノ他教務ニ關スル一切ノ事項

第七條 生徒課ノ擔任スヘキ事項左ノ如シ

- 一、生徒心得ニ關スルコト
- 二、生徒ノ服制ニ關スルコト
- 三、生徒ノ風紀及操行ニ關スルコト

- 四、生徒ノ訓戒處分ニ關スルコト
- 五、生徒ノ諸集會ニ關スルコト
- 六、體育及運動ニ關スルコト
- 七、保健及身體檢查ニ關スルコト
- 八、生徒課ニ屬スル文書ノ起案ニ關スルコト
- 九、生徒ノ學籍及兵役ニ關スルコト
- 一〇、生徒ノ缺席缺課及遲刻ニ關スルコト
- 一一、生徒ノ退學休學其他ノ事故ニ關スルコト
- 一二、在學證明書及品行證明書ニ關スルコト
- 一三、生徒ノ乘車乘船運賃割引證ニ關スルコト
- 一四、生徒控所、集會所、寄宿寮、生徒課ノ設備及其ノ物品ニ關スルコト
- 一五、生徒ノ入寮、退寮、外泊ニ關スルコト
- 一六、寄宿寮ノ監視、警備、衛生、炊事等ニ關スル一切ノ事項

一七、其ノ他生徒ノ取締ニ關スル一切ノ事項

第八條 圖書課ノ擔任スヘキ事項左ノ如シ

- 一、圖書ノ保存及整理ニ關スルコト
- 二、圖書印ノ管守ニ關スルコト
- 三、圖書課ニ屬スル文書ノ起案ニ關スルコト
- 四、講入圖書ノ審査ニ關スルコト
- 五、圖書ノ購入及修繕ニ關スルコト
- 六、圖書出納簿及其ノ他諸帳簿ノ處理ニ關スルコト
- 七、圖書目錄編纂ニ關スルコト
- 八、圖書貸付ニ關スルコト
- 九、新聞、雜誌、年報、一覽等ノ保存及整理ニ關スルコト
- 一〇、書庫、閱覽室及圖書課ノ設備及其ノ物品ニ關スルコト
- 一一、其ノ他圖書ニ關スル一切ノ事項

第九條 庶務課ノ擔任スヘキ事項左ノ如シ

- 一、御眞影御影及勅語ノ保管ニ關スルコト
- 二、校長ノ官印及校印ノ管守ニ關スルコト
- 三、職員ノ人事ニ關スルコト
- 四、職員ノ服務ニ關スルコト
- 五、職員ノ出勤調査及其ノ報告ニ關スルコト
- 六、雇外國人ニ關スルコト
- 七、公文書ノ處理ニ關スルコト
- 八、庶務課ニ屬スル文書ノ起案ニ關スルコト
- 九、年報、一覽、統計ノ作成及官報報告等ニ關スルコト
- 一〇、諸規則ノ制定改廢ニ關スルコト
- 一一、評議員會ニ關スルコト
- 一二、卒業生ニ關スルコト

一三、教員無試験檢定願ニ關スルコト

- 一四、日誌及諸記録ニ關スルコト
- 一五、諸儀式ニ關スルコト
- 一六、寄贈金品取扱ニ關スルコト
- 一七、事務當直ニ關スルコト
- 一八、職員乗車乗船運賃割引證ニ關スルコト
- 一九、參觀人以外ノ外來者應接ニ關スルコト
- 二〇、受附、應接室、庶務課ノ設備及物品ニ關スルコト
- 二一、他ノ各課ニ屬セサル一切ノ事項

第十條 會計課ノ擔任スヘキ事項左ノ如シ

- 一、歳入歳出豫算及決算ニ關スルコト
- 二、資金ニ關スルコト
- 三、金錢ノ收支保管ニ關スルコト

- 四、歳入歳出ニ關スルコト
- 五、會計課ニ屬スル文書ノ起案保存整理ニ關スルコト
- 六、物品購入及不用物品處分ニ關スルコト
- 七、物品ノ出納保管及證明ニ關スルコト
- 八、修繕ニ關スルコト
- 九、校舍敷地ニ關スルコト
- 一〇、樹木ノ手入上下水ノ浚渫ニ關スルコト
- 一一、電話、電燈、瓦斯、給水及暖房取扱ニ關スルコト
- 一二、校内一般ノ警備取締ニ關スルコト
- 一三、校舎内外ノ洒掃ニ關スルコト
- 一四、傭人ノ進退及取締ニ關スルコト
- 一五、校長室、食堂、當直室、小使室、會計課ニ屬スル物品及他ニ屬セサル物品ニ關スルコト

一六、其ノ他會計ニ關スル一切ノ事項

八、會議規程

- 一、評議員會 教頭及特ニ學校長ヨリ命セラレタル評議員ヲ以テ之ヲ組織シ重要事項ニ就キ學校長ノ諮詢ニ應ス但シ他ノ教官及職員ヲ參與セシムルコトアルヘシ
- 二、教授會 學校長ハ必要アル場合之ヲ召集シ其ノ意見ヲ徵ス但シ臨時教授以外ノ職員ヲ加フルコトアルヘシ
- 三、協議會 各課ノ事務ニ關シ必要アル場合之ヲ開會ス教頭、課長又ハ主任ノ申請ニヨリ學校長之ヲ召集ス

九、教官服務細則

第一條 本細則ニ於テ教官ト稱スルハ教授、配屬將校、助教授、講師及雇外國人教師ヲ包含ス

第二條 教官ハ其ノ分擔ノ範圍内ニ於テ學校長ニ對シ生徒教育ノ責ニ任ス

第三條 教官ハ學校長ノ命ヲ承ケ諸種ノ試験其ノ他臨時ノ事務ニ従事スヘシ

第四條 教官ハ教授訓育其ノ他學校ノ利害ニ關係アル事項ニ就キ意見ヲ學校長ニ具申スルコトヲ得

第五條 教官ハ學校長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ報酬ノ有無ヲ問ハス他ノ職務ニ従事スルコトヲ得ス

第六條 教官ハ疾病其他ノ事故ノ爲ニ出勤シ難キ場合ハ出勤時限前ニ其ノ事由ト缺勤ノ日限トヲ教務課ヲ經テ届出ツヘシ若シ病氣缺勤ニシテ七日ヲ過クルモノハ醫師ノ診断書ヲ添付スヘク爾後ハ十五日毎ニ同様ノ手續ヲナスヘシ

附 則

事務員服務細則第六條ヨリ第十五條ニ至ル規程ハ之ヲ教官ニ準用ス

一〇、事務員服務細則

第一條 事務員ハ定時マテニ登校シ出勤簿ニ捺印スヘシ

第二條 事務繁劇若クハ至急處理ヲ要スル者アルトキハ執務時間外ト雖服務スヘシ

第三條 退出時限後ト雖學校長退出ナキトキハ退出スルコトヲ得ス

第四條 執務時間中事故アリテ退出セムトスルトキハ上官ノ承認ヲ受クヘシ

第五條 疾病其他ノ事故アリテ出勤シ難キトキハ當日出勤時限前ニ其ノ事由及缺勤ノ日限ヲ首席書記ヲ經テ届出ツヘシ若シ疾病ノ爲ニ缺勤七日ヲ過クレハ届書ニ醫師ノ診断書ヲ添付シ爾後十五日毎ニ同様ノ手續ヲナスヘシ轉地療養セムトスル者ハ願書ニ其ノ日限及行先地名ヲ明記シ醫師ノ診断書ヲ添付シテ許可ヲ受クヘシ

第六條 父母ノ祭日ニ休暇ヲ得ムトスル者ハ其ノ前日願出ツヘシ

第七條 父母看病ノ爲請暇セムトスル者ハ願書ニ其ノ日限（往復共）及行先地名ヲ明記シ許可ヲ受クヘシ父母ノ墓參等ノ爲ニ請暇セムトスル者亦同シ

第八條 休暇ヲ得テ旅行セムトスル者ハ其日限及行先地名ヲ記載シタル届書ヲ出發前ニ差出スヘシ

第九條 出張ノ命ヲ受ケタル者ハ出發及歸校ノ際其ノ旨ヲ届出ツヘシ出張ノ命ヲ受ケタル者ハ歸校後五日以内ニ復命書ヲ差出スヘシ但シ簡單ナル事項ハ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

第十條 喪ニ丁リタル者ハ死者トノ關係及忌服遠慮ノ日數ヲ詳記シテ届出ツヘシ
第十一條 新任ノ者ハ五日以内ニ履歷書及住所届ヲ差出スヘシ爾後住所ヲ轉シタルトキ亦同シ

第十二條 轉免ノ際ハ取扱書類ノ件名簿ヲ作り引繼ヲナスヘシ

第十三條 課係主任ハ其ノ課ノ事務ニツキ責ニ任ス

第十四條 課員ハ其ノ取扱項事ニ付責ニ任ス

第十五條 近火又ハ事變アルトキハ速ニ登校シ臨機ノ處置ヲナシ直ニ上官ニ報告シ其指揮ヲ受クヘシ

一、文書處理及保存規程

本規程ニ於テ文書ト稱スルハ圖書以外ノ記録簿冊等一切書類ヲ謂フ

第一章 處 理

第一條 公文書ハ第二條ニ掲記スル者ノ外ハ總テ庶務課ニ於テ接受シ「文書受附配付簿」ニ登記シ收受番號及月日ヲ記入シ直ニ主掌分課ニ配付シ取扱者ノ證印ヲ徴スヘシ

二分課以上ニ關係アル文書ハ其ノ重キニ從ヒ配付スヘシ

親展書ハ封緘ノ儘宛名ニ配付スヘシ

但シ生徒宛ノモノハ總テ生徒課ニ配付スヘシ

第二條 左ノ文書ハ庶務課ヲ經由セス主掌分課ニ於テ接受スヘシ

一、教務ニ關シ教官ヨリ提出スル報告書類及教官ノ缺勤届書

二、生徒ヨリ差出ス願届書類

三、入學志願者受験名票

四、其ノ他學校ノ指定シタル書類

第三條 配付ヲ受ケタル文書ハ主掌分課ニ於テ「件名簿」ニ登記シ速ニ之ヲ調査シ處分案ヲ具シ課長ヲ經テ學校長ノ決裁ヲ受クヘシ
但シ二分課以上ニ互ルモノハ豫メ其ノ合議ヲ遂クヘシ

事件ノ性質上直ニ處分案ヲ提出スル能ハサル者若クハ處分ヲ要セスト認ムルトキハ配付文書ヲ課長ヲ經テ學校長ノ閱覽ニ供シ指揮ヲ受クヘシ

第四條 左ノ文書ハ主掌課長限リ處分スヘシ

- 一、生徒在學證明ニ關シ徵兵事務ニ關係ナキモノ
 - 二、生徒ノ學業成績證明ニ關スルモノ
 - 三、生徒ノ宿所入寮退寮及諸届出ニ關スルモノ
 - 四、物品ノ支給ニ關スルモノ
 - 五、一定ノ例規ニ依ルモノ
- 第五條 文書ハ總テ主掌分課ニ於テ發案シ順次上司ノ供閱ヲ受クヘシ
二分課以上アル者ハ他ノ課ニ合議スヘシ

第六條 決裁済ノ文書ハ主掌分掌ニ於テ決裁年月日ヲ記入シ速ニ處理ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 發送ヲ要スル文書ハ件名簿ニ登記シ淨書ト共ニ執務時間内ニ庶務課ニ回付シ件名簿發送濟欄ニ證印ヲ徵スヘシ

至急ヲ要スル文書ニシテ執務時間外ニ發送ヲ要スルモノハ當直員ニ回付シ前同様ノ手續ヲ了スヘシ

第八條 庶務課ニ於テ發送文書ヲ受理シタルトキハ之ニ校長印又ハ學校印ヲ押捺シテ直ニ發送ヲナスヘシ

但シ輕易ナル事件ニ付テハ主掌分課印ヲ用フルコトヲ得
第九條 庶務課ニ於テ郵便電信ヲ發送シタルトキハ郵便電信發送簿ニ登記シ證印ヲナスヘシ

第二章 保 存

第十條 事件完結シタル文書ハ各主掌分課ニ於テ整理編纂シ之ヲ保存スヘシ

第十一條 文書編纂ノ種類及其ノ保存期間ハ別ニ之ヲ定ム但シ特別ノ事由アルトキハ
 經伺ノ上之ヲ改廢シ若クハ別ニ種類ヲ設クルコト得

第十二條 文書ハ左ノ各號ニ依リ編纂スヘシ

一、事件完結ノ順序ニ依リ曆年(會計ニ關スルモノハ會計年度)ヲ以テ分界トス但シ
 紙數ノ多寡ニ依リ一ヶ年分ヲ便宜分綴シ又ハ數年分ヲ合綴スルコトヲ得

二、卷首ニ件名及索引丁數ヲ掲記シタル目錄ヲ附シ其ノ表紙ニ名稱年若クハ年度保
 存期間及主掌課係名ヲ記載シ數冊ニ分綴セシモノハ數字ノ符號ヲ附シ尙檢索ヲ
 容易ナラシムル爲前部切斷面ニ名稱若クハ年度保存期間ヲ標記スルコト但シ保
 存期間三年ニ屬スル文書ニハ目錄ヲ附セサルコトヲ得

三、圖表類ニシテ合綴シ難キモノハ袋又ハ宮ニ納メテ名稱ヲ標記シ其ノ所在ヲ目錄
 ニ附記スルコト

第十三條 前條ニ依リ編纂シタル文書ハ文書臺帳(別紙様式)ニ登録シテ之ヲ一定ノ場
 所ニ藏置スヘシ

第十四條 保存期間ハ文書完結ノ翌年ヨリ起算ス但シ會計年度ニ屬スルモノハ翌年度
 ヨリ起算スヘシ

第十五條 保存期間ヲ了リ若クハ未タ了ラサルモ保屬ノ必要ナシト認メタル文書ハ經
 伺ノ上之ヲ會計課ニ引繼クヘシ但シ一般ノ披閱ヲ避クヘキ文書ハ引繼前經伺ノ上相
 當ノ措置ヲ爲スヘシ

前項ノ引繼ヲ了リタルトキハ文書臺帳ニ廢棄年月日ヲ記入スヘシ

自昭和 年(度)
 至昭和 年(度)

文 書 臺 帳

課 (係)

名	稱	年(年度)	冊	數	保存期間	保存終期	廢棄年月日